

取扱説明書及び部品表

Takakita

マニマスプレッダ

北海道仕様 DL9011 DL11011

都府県仕様 DL9011T DL11011T



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、マニアスプレッタの取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。

ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げ販売店または当社にご注文ください。

(部品コードは裏表紙に記載してあります。)

- 本書は**注意**として知っておくと得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、本製品については不断の研究成果を新しい技術として直ちに取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

⚠ 警 告 サ イ ン

⚠ 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	18
各部の名称とはたらき	19
トラクタへの装着	21
1. 装着のしかた	21
2. ユニバーサルジョイントの取付	21
3. セーフティチェーンの接続	22
4. 油圧ホースの接続	22
5. コントロールボックスの接続	23
6. 灯火装置の接続	24
運転に必要な装置の取扱い	25
1. スタンドの取扱い	25
2. マニアパンの取扱い	25
3. 散布量（コンベア送り速度）の調整	26
4. P T O連動機能について	27
作業方法	28
1. 作業手順と要点	28
2. 移動するときは	29
3. 堆肥の積み込み方法	29
4. 散布できない物は	29
5. 散布量とトラクタ速度について	30
6. 散布方法について	30
7. 傾斜地での作業	31
8. 逆転操作	31
作業前の点検について	33
1. 点検一覧表	33
簡単な手入れと処置	34
1. コンベアチェーンの張り調整	34
2. 各駆動チェーンの張り調整	34
3. シェアボルトの交換	35
4. 洗浄について	35
5. ビータ羽根の交換と配列	35
6. タイヤハブナットの増し締め	35
7. タイヤの点検、修理	36
8. P T O回転速度検出センサについて	36
9. 各部の注油・グリスアップ	37
10. ギヤボックスオイル交換	40
11. 長期格納時の手入れ	40
12. コントロールボックス（電気系統）が故障した場合の処置	41
不調診断	43
付表	44
1. 主要緒元	44
2. 主な消耗部品	44
3. 給油	44

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

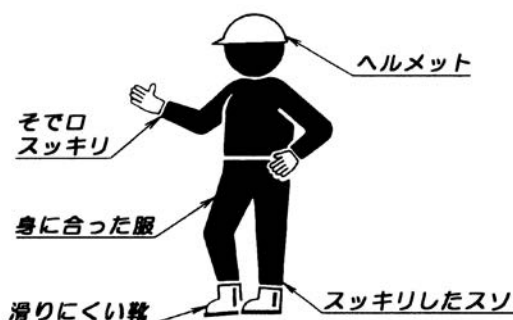
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。
- 16歳未満の人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



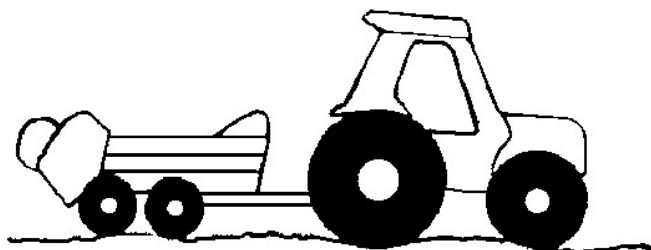
(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適用トラクタ

型 式	適応トラクタ kW(PS)
DL9011	44.1～81 (60～110)
DL11011	58.8～99.3 (80～135)

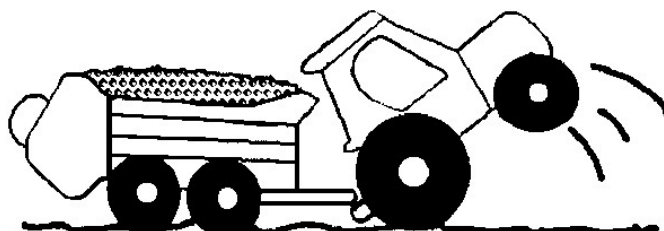
- 装着方式 : ドローバ
- PTO回転速度 : $540 \text{ min}^{-1} (\text{rpm})$
- 油圧取り出し : 複動1系統



(4) 装着時の前後バランス確認

ドローバに取付けて堆肥などを積載したときのヒッチ荷重に、トラクタ質量を加えた20%以上の荷重が前輪に作用していることが必要です。

もし、不足するときはフロントウェイトを取付けて、20%以上を確保するかできなければ装着しないでください。



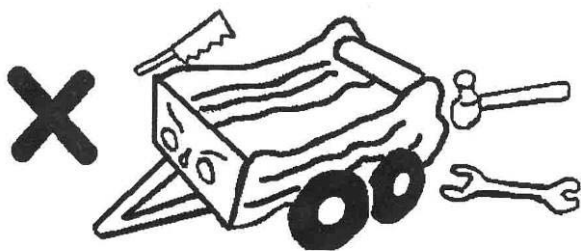
⚠ 安全に作業するために

(5) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けないでください。

(6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。また、改造はしないでください。



(7) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

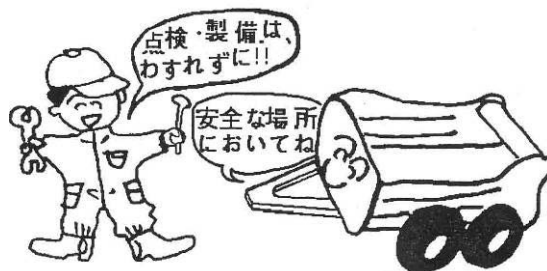


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除するときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所でトラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキ又は車止めをしてから行ってください。



(4) 機械を常にきれいに

本機の性能を長期間維持するためにも、機械を常にきれいに維持してください。



(5) 排気ガスには十分注意

屋内などでトラクタのエンジンを始動するときは、エンジンの排気ガスによる中毒のおそれがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所でし、やむをえず屋内で使用する場合には、十分換気を行ってください。



(6) カバー類を必ず取付ける

カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

⚠ 安全に作業するために

(7) 注油・給油をするときは

エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。



(8) 高圧油に注意してください

- ① 高圧油による傷害を防止するために、配管・ホースなどの取外し前には、必ず圧力を抜いてください。
- ② 圧力をかける前に配管・ホースなどは、正しく確実に締め付けてください。
- ③ 非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。手で油漏れを探すことはやめてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。
- ④ 漏れによるヤケドやケガを負った場合は、速やかに医者診療を受けてください。

(9) 長期格納するときは

機械をきれいにし、回転部及びチェンには十分注油して、屋内の平坦な場所に車止めをして保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

また、ビータを回転させるときは付近に人や器物がないことを確認してから行ってください。



(2) エンジンを始動するときは

クラッチを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。周囲の安全を確かめ、急発進をしないよう徐々に発進してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(3) 2人以上で作業するときは

2人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。

(4) 回転中のビータには触れない

回転しているビータに巻き込まれると重傷を負うことがあります。手や足で絶対に触れないようにしてください。

(5) シェアボルトの交換や巻き付き堆肥などを取り除くときは

エンジンを必ず止めてから行ってください。

⚠ 安全に作業するために

(6) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

移動時のスピードは15km/h以上出さないでください。スピードを出しすぎたり、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力低くして作業を行ってください。

(7) 傾斜地で作業するときは次のことを必ず守ってください

①斜面の等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。斜面の作業は、必ず直角方向に走行してください。

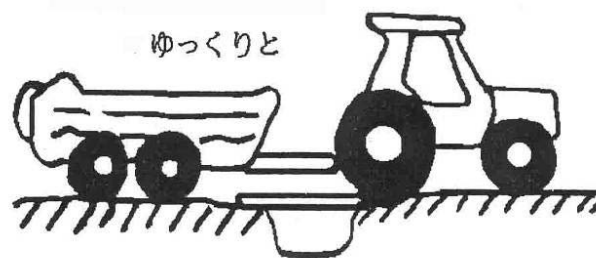
②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。高速で旋回すると、転倒する危険があります。

(8) キャビンなしのトラクタに装着して作業する場合

堆肥が前方に飛散し、目に入るおそれがありますので必ず保護メガネを着用して作業してください。

(9) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。

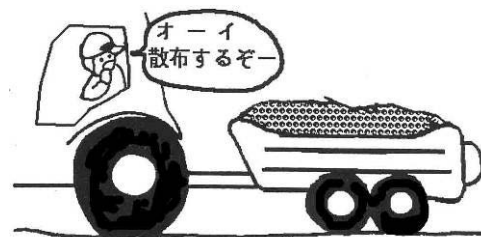


(10) 作業途中で運転席より離れるときは

機械を平坦な場所に降ろし、エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてください。また、本機に車止めをしてください。

(11) 堆肥を散布するときは

堆肥散布を始めるときは、後方に人や障害物のないことを十分確認し、散布距離を考慮して散布してください。



4. 道路走行・輸送するときは

(1) トラックなどへの積込み、積降しは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ車止めをしてください。

積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

⚠ 安全に作業するために

5. 公道走行するときは

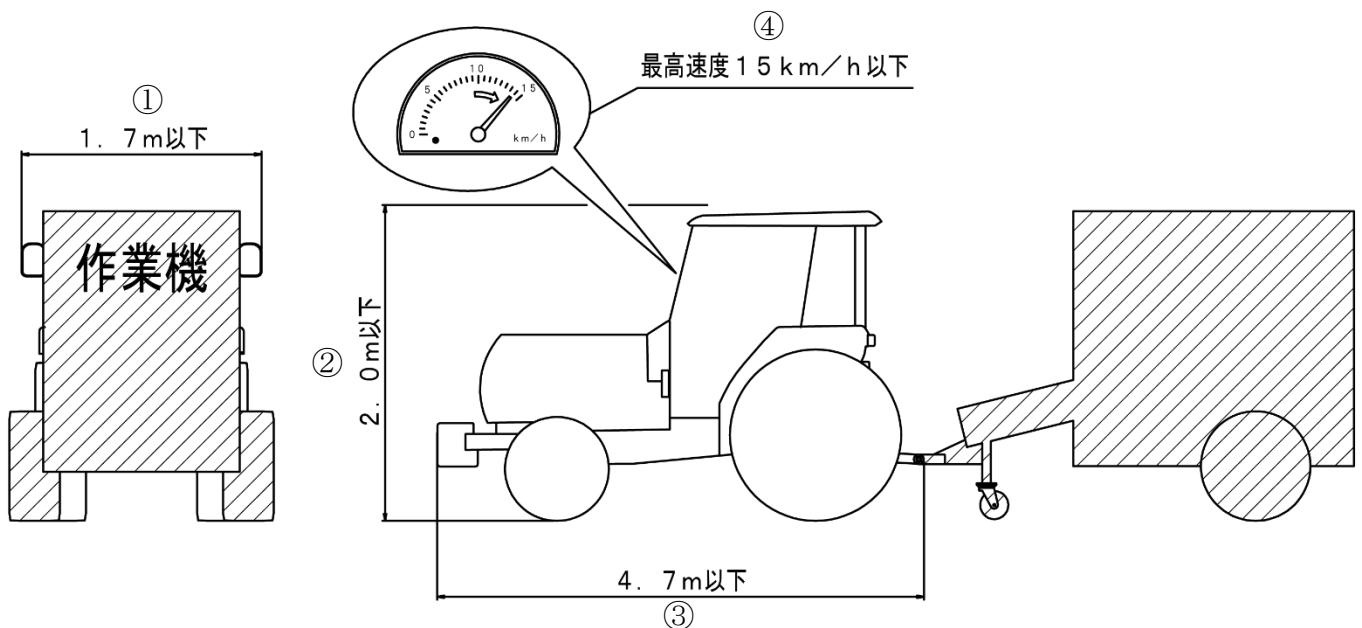
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、けん引タイプの作業機で公道走行を行うことができます。公道走行をする際は、下記項目を確認した上で必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

(1) 必要な運転免許証について

トラクタの寸法が下表①～③の数値以内で④最高速度15 km/h以下の場合は小型特殊免許で運行可能になりますが、下表①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許（農耕用に限る、も含む）とけん引免許（農耕用に限る、も含む）が必要となります。ただし、車両総重量750 kgを超えない農耕作業用トレーラをけん引する場合、けん引免許（農耕用に限る、も含む）は必要ありません。

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| ① 幅1.7 m | ② 全高2.0 m（安全キャブや安全フレームは2.8 m） |
| ③ 全長4.7 m | ④ 最高速度15 km/h以下 |

下図を参考にご確認ください。



⚠ 安全に作業するために

(2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

いずれの場合も農耕作業用トレーラ、農耕トラクタの使用者が保安基準適合性を確保する必要があります。

けん引車の農耕トラクタの種別	農耕作業用トレーラの種別と手続き
小型特殊自動車	[小型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※1 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要はありません。
大型特殊自動車 (自動車検査証にけん引時の速度制限の基準緩和を受けた旨の記載があるもの)	②全幅が 2.5m を超えるもの ・道路管理者(地方整備局、各都道府県、各市町村等)に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。 ③長さが 12m または全高 3.8m を超えるもの ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。
大型特殊自動車 (上記以外のもの)	[大型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※2 ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ②長さが 12m または高さが 3.8m を超えるもの、その他オーバーハング等の基準を超えるもの ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。

※1 全幅 2.5m、全長 12m、全高 3.8m を超えない大きさのもの

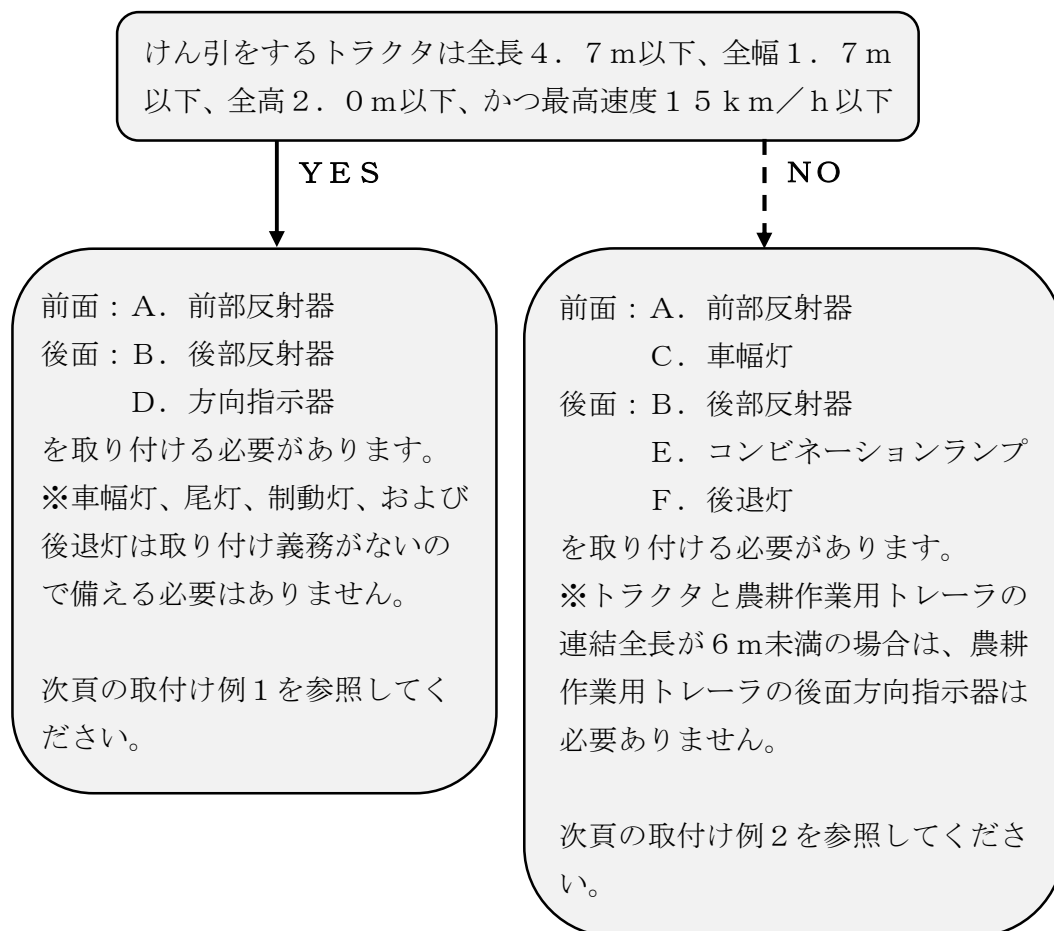
※2 農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が 12m を超える場合、道路管理者(地方整備局、地方自治体等)から、特殊車両通行許可を受ける必要があります。

⚠ 安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカーの取付け

下記フローチャート①～③を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①トラクタの大きさ、最高速度による灯火器取付け位置



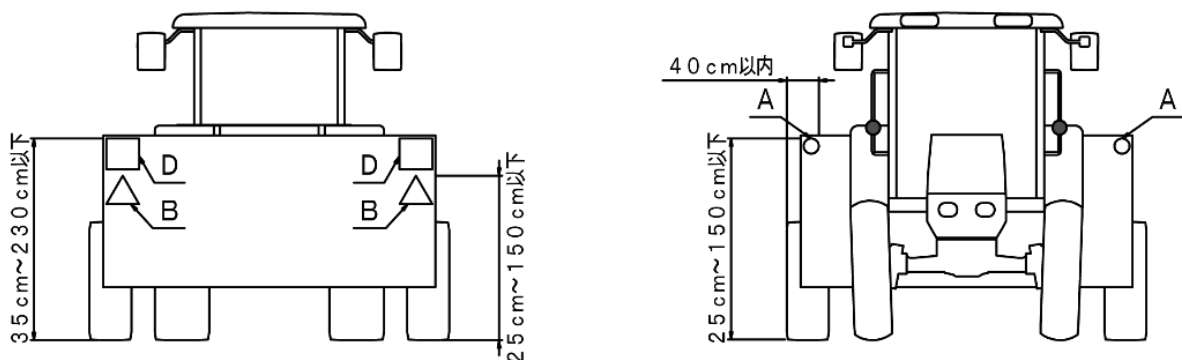
A.前部反射器	B.後部反射器	C.車幅灯	D.方向指示器
			
E.コンビネーションランプ		F.後退灯	
			

⚠ 安全に作業するために

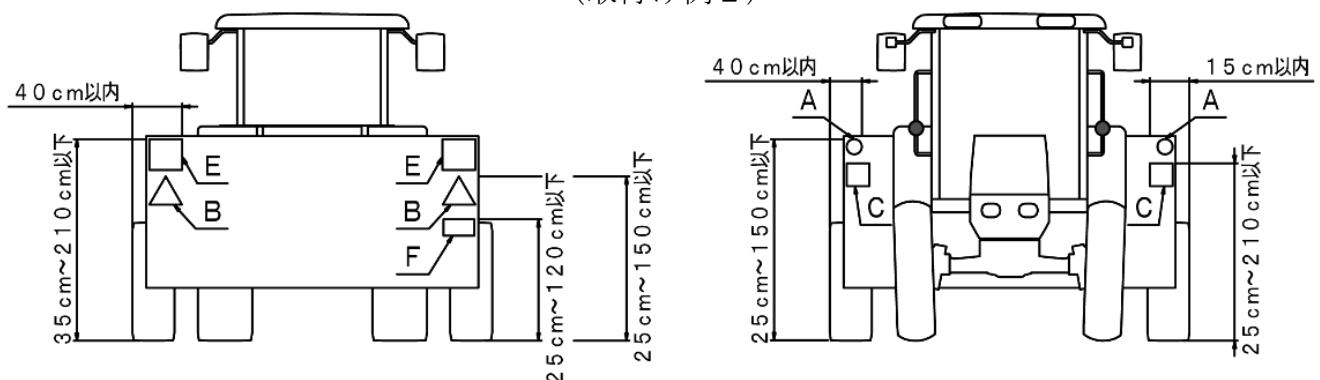
● 装備の取付け位置

- ・道路運送車両の保安基準により、各種灯火器類の取付け位置は定められています。
 - 前部反射器（リフレクタ） 最外側から40 cm 以内、高さは地上25 cm 以上150 cm 以下
 - 後部反射器（リフレクタ） 最外側から40 cm 以内、高さは地上25 cm 以上150 cm 以下
 - 車幅灯（ポジションランプ） 最外側から15 cm 以内、高さは地上25 cm 以上210 cm 以下
 - 方向指示器（ウインカ） 最外側から40 cm 以内、高さは地上35 cm 以上230 cm 以下
 - 尾灯（テールランプ） 最外側から40 cm 以内、高さは地上35 cm 以上210 cm 以下
 - 制動灯（ブレーキランプ） 最外側から40 cm 以内、高さは地上35 cm 以上210 cm 以下
 - 後退灯（バックランプ） 高さは可能な限り25 cm 以上120 cm 以下
- ・車幅灯は前方から確認（視認）できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
 - ・コンビネーションランプは後方から確認（視認）できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
 - ・後退灯は後方から確認（視認）できる位置に上記条件を満たすように取付けてください。

（取付け例 1）

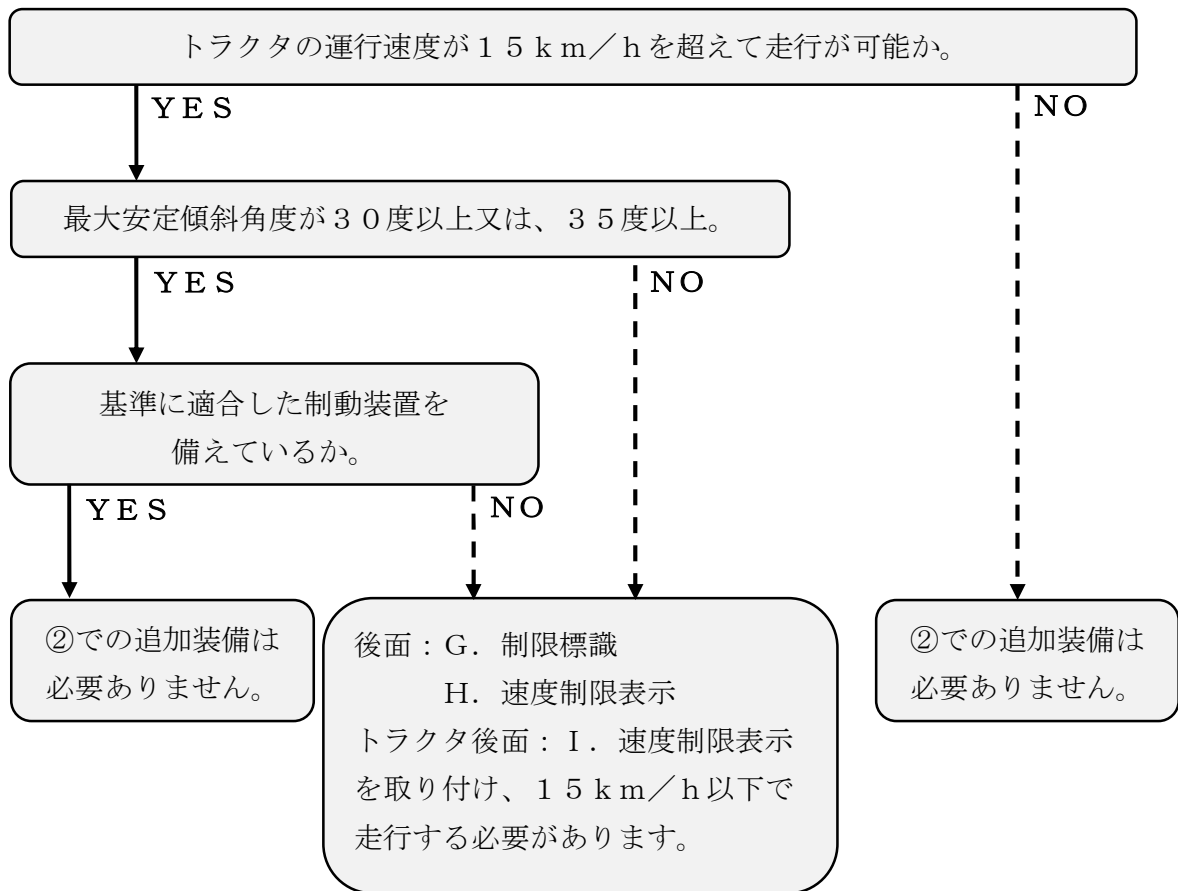


（取付け例 2）



⚠ 安全に作業するために

②トラクタの運行速度



●最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度15 km/h以下で走行してください。

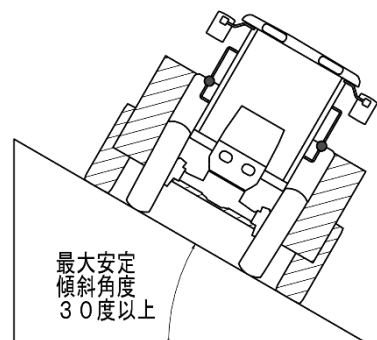
<安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が30度以上又は、35度以上（車両総重量が車両重量の1.2倍以上又は、積載により重心高さが上がるもの）であれば、通常で速度で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

- ・運行速度15 km/h以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、Gを作業機後面に表示、
Hを作業機後面に表示、

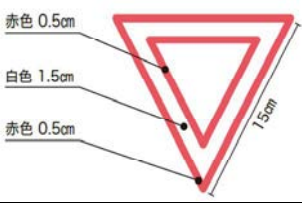
Iをトラクタ後面・運転席に表示
を行う必要があります。



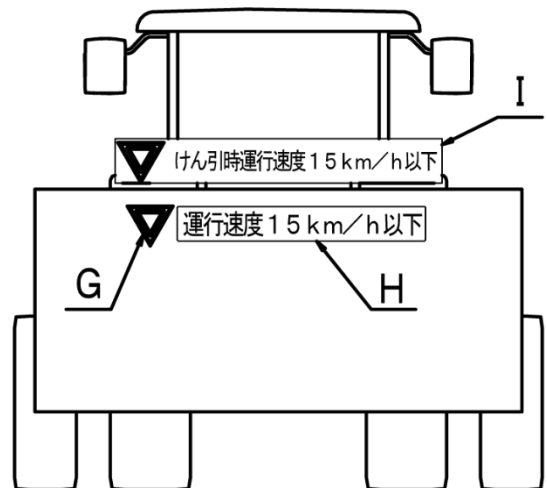
⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

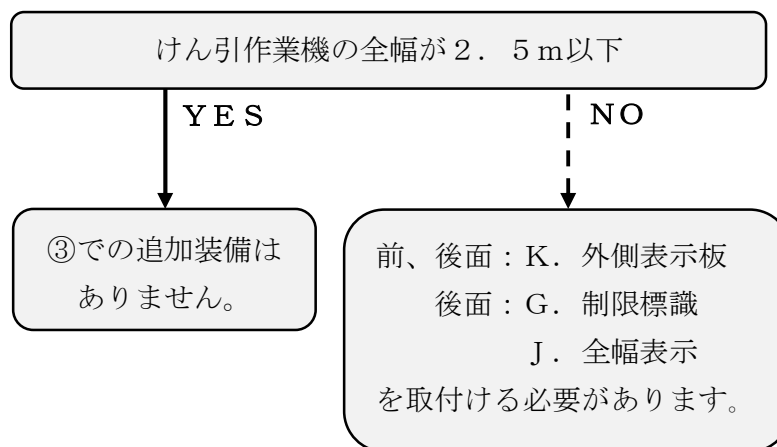
- ・ G、H、I は後方から確認できる位置に取付けてください。
- ・ H は運転席にも表示する必要があります。

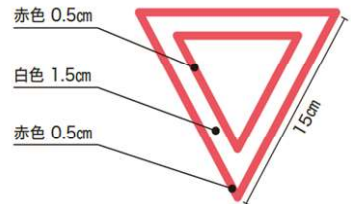
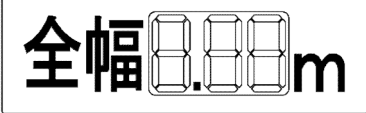
G. 制限標識	H. 速度制限表示（作業機側）
	
I. 速度制限表示（トラクタ側）	
	

（取付け例）



③ 作業機装着時の全幅



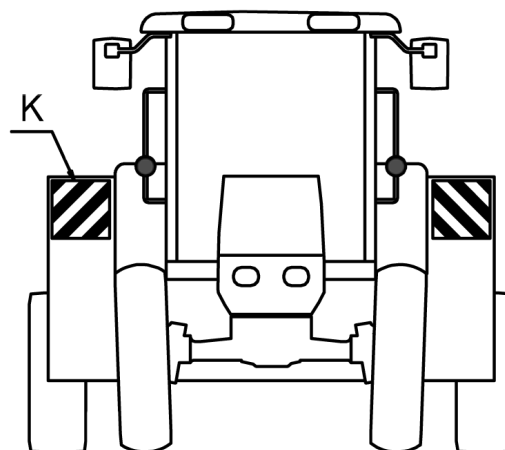
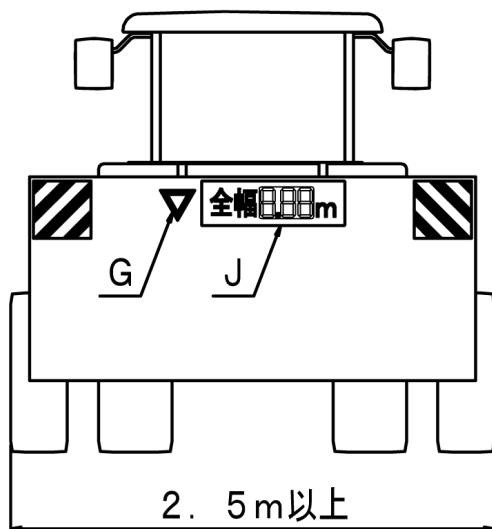
G. 制限標識	J. 全幅表示	K. 外側表示板
		

⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

- ・ G、J は後方から見やすい位置に取付けてください。
- ・ K は前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。

(取付け例)



⚠ 安全に作業するために

灯火器類・ステッカー取り付け例

灯火器取り付け位置 車幅灯 前部反射器 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器 後退灯	全長4.7m以下、 全幅1.7m以下、 全高2.0m以下、 最高速度15km/h 以下の場合	(ア)
	上記の寸法 または最高速度 15km/hを1つでも 上回る場合	(イ)
	全幅が2.5mを 超える場合	(ウ)

灯火器・ステッカー

A. 前部反射器



B. 後部反射器



C. 車幅灯



D. 方向指示器



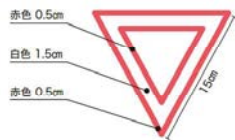
E. コンビネーションランプ



F. 後退灯



G. 制限標識



H. 速度制限表示
(作業機側)

運行速度15 km/h以下

I. 速度制限表示
(トラクタ側)

けん引時運行速度15 km/h以下

J. 全幅表示

全幅8.88m

K. 外側表示板

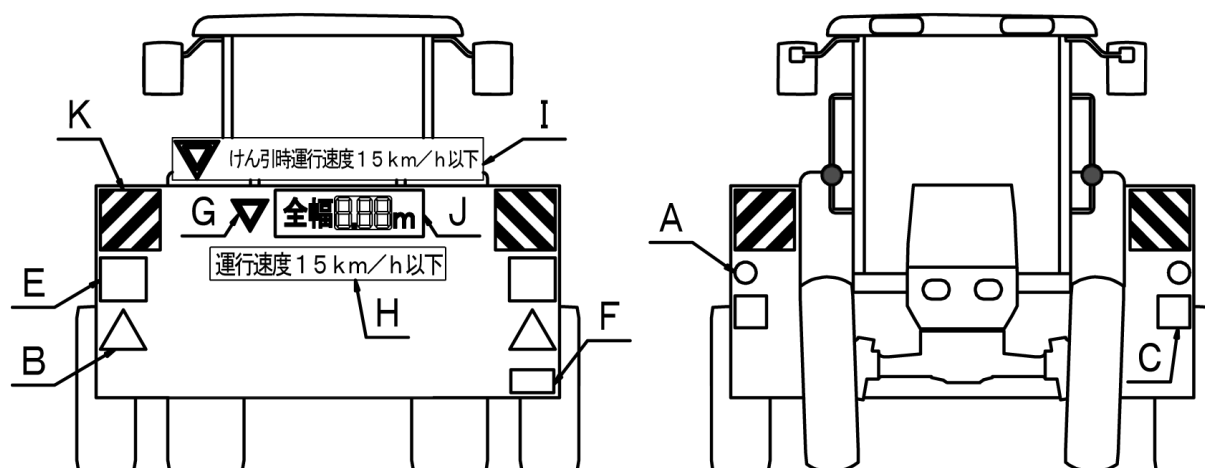


※全幅2.5mを超過する場合は、道路管理者（国道：地方道路局、県道：各都道府県、市道：各市町村）から特殊車両通行許可を得る必要があります。

⚠ 安全に作業するために

- p. 9「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

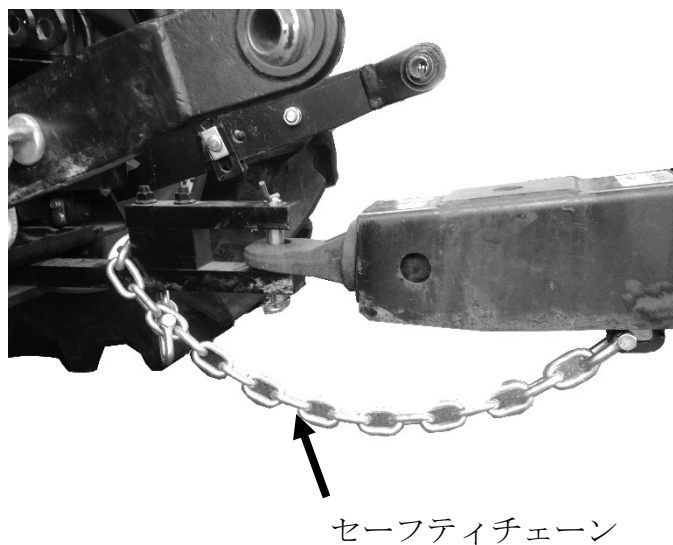
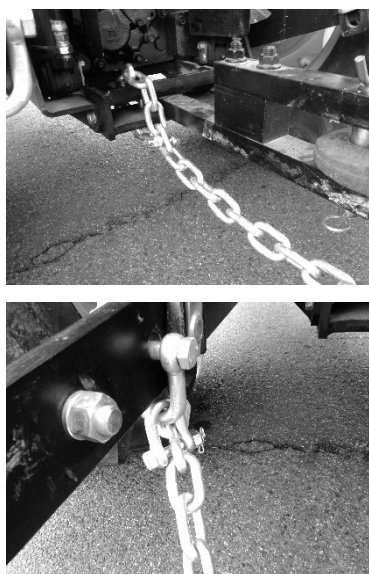
例：(ウ) に速度制限表示を追加



- 灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

(4) 農耕作業用トレーラの構造要件（分離時の連結維持構造）に関して

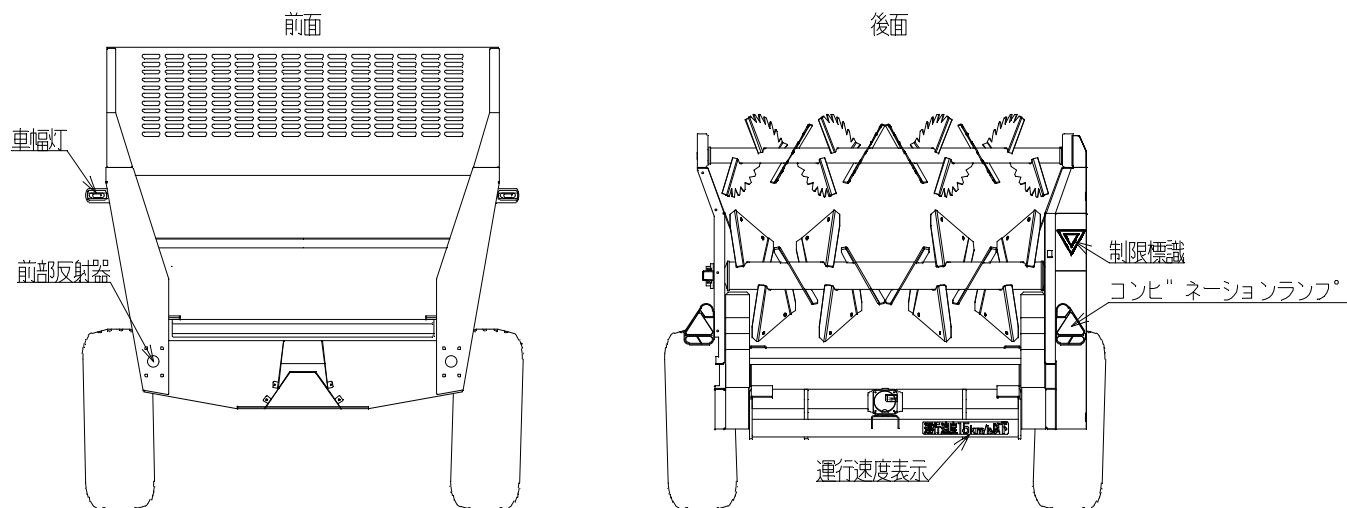
農耕トラクタが農耕作業用トレーラをけん引した際に、不意に連結装置（ドローバ等）が分離したときでも農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結を保つことができる構造でなければ道路走行できません。セーフティチェーン等を備え、けん引時にはセーフティチェーン等をねじ止め等でつないで道路を走行してください。



⚠ 安全に作業するために

(5) 本機の公道走行対応について

本機には、下記部品が標準装備されています。保安基準の緩和により運行速度 15 km/h 以下で公道走行することができます。



また、トラクタと作業機を連結するためのセーフティチェーンと固定用のシャックルを付属しています。作業機をトラクタでけん引して公道走行する際は必ず取付けてください。取付方法については、22ページ 3. セーフティチェーンの接続を参照してください。

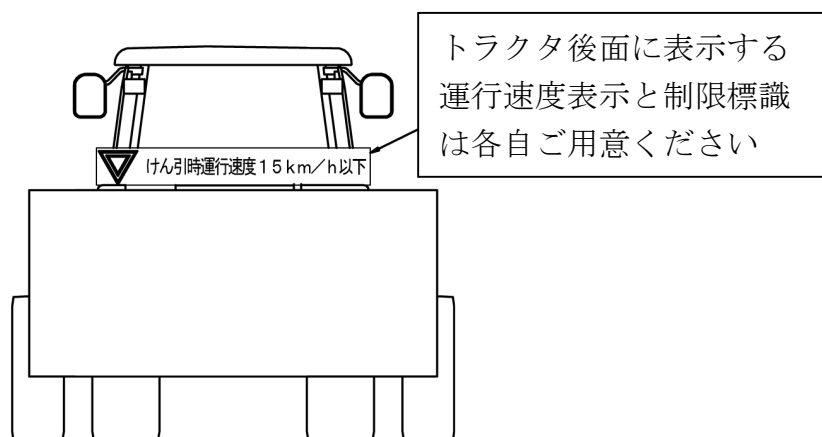
⚠ 安全に作業するために

トラクタ運転席に表示する、全幅表示と運行速度表示を付属しています。
運転席から確認できる位置に表示してください。

運行速度表示（トラクタ運転席用）



ただし、トラクタ後面に表示する運行速度表示及び制限標識は付属されていません。
お客様ご自身でご用意ください。



詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/koudo.html>)をご覧ください。

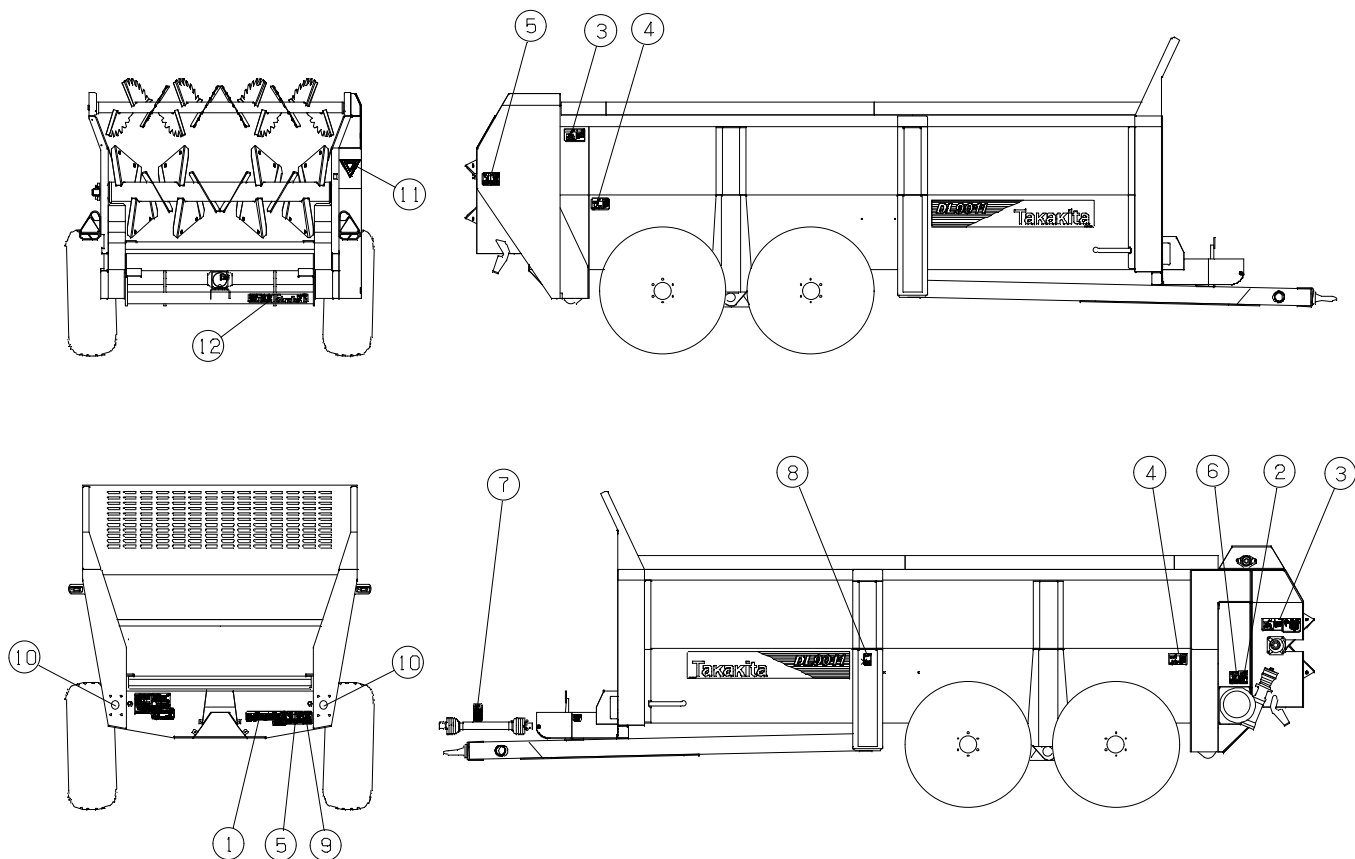
その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。

安全に作業するために

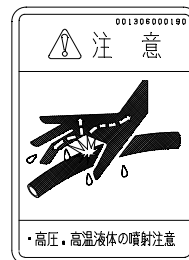
5. 警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 00130-6200-311

②部品コード 00130-6000-190

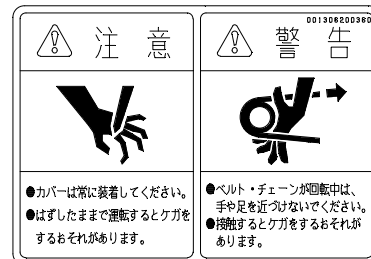
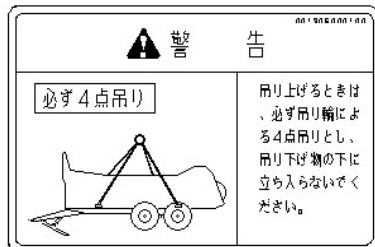
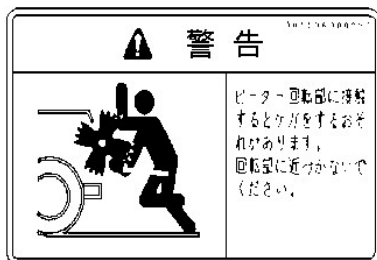
⚠ 注意		⚠ 警告		⚠ 危険	
1. 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟読するまで読み取ってください。	エンジンやブレーキを止めてください。				
2. 全機のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。	6. 作業中の急停車時は急停車をしないでください。	高圧・高温液体の噴射注意	PTO回転速度は540min ⁻¹ (rpm)以下で作業してください。	点検時エンジン停止	毎作業終了後には廃油や金剛砂・トラクタの廃油・排気油を適切に処理してください。
3. エンジン・燃料系・油圧系・電気系・その他各部の修理・点検・調整等は必ず専門の整備士に依頼してください。	7. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。				
4. 作業中に人や動物を近づけないでください。	8. 手・足等の身体部分に近づけないようにしてください。				
5. 運転席を離れるときは、必ずエンジンを止めてください。	9. 急停車をしない限り、公道走行はできません。				



③部品コード 00120-6000-250

④部品コード 00130-6000-100

⑤部品コード 00130-6200-360



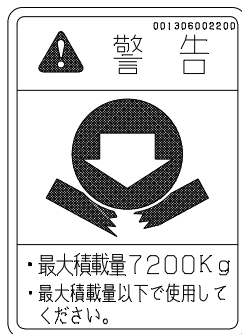
⚠ 安全に作業するために

⑥部品コード 00130-6000-080 ⑦部品コード 00130-6950-010 ⑧部品コード 00120-6000-750

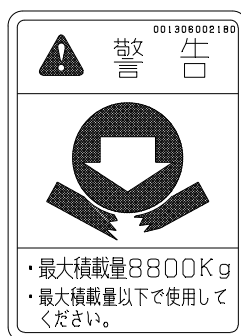


⑨部品コード

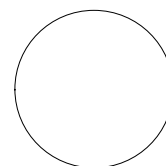
00130-6002-200
(DL9011 専用)



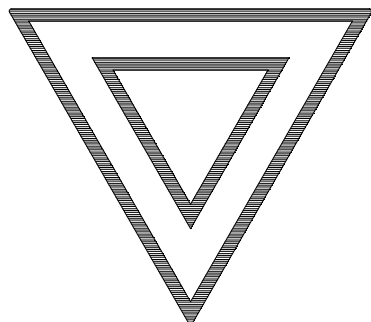
00130-6002-180
(DL11011 専用)



⑩部品コード 00120-6002-280



⑪部品コード 00120-6002-260 ⑫部品コード 00130-5200-030



運行速度15km/h以下

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにし傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、堆肥散布にご使用ください。

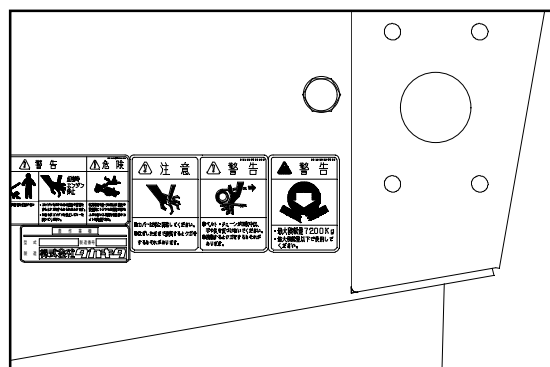
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体No. (SER-No.)
- ご使用状況は？ (どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？ (約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体No.は、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体No.などを記入しておいてください。】

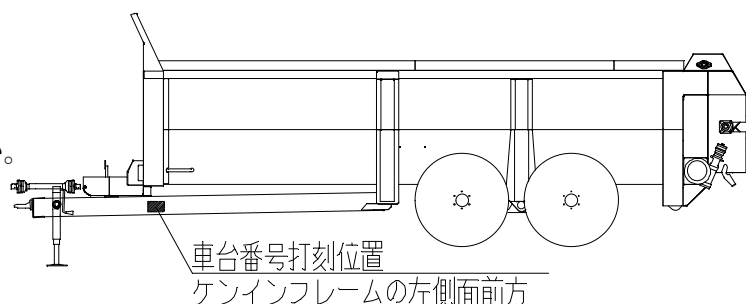
品名	マニアスプレッダ		
型式			
機体No. (SER-NO.)			
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

車台番号について

本製品には、上記機体No.と関連させて機械の同一性を管理する車台番号が打刻されています。

打刻位置と打刻形式は右図を参照ください。

車台番号
DL11010-****

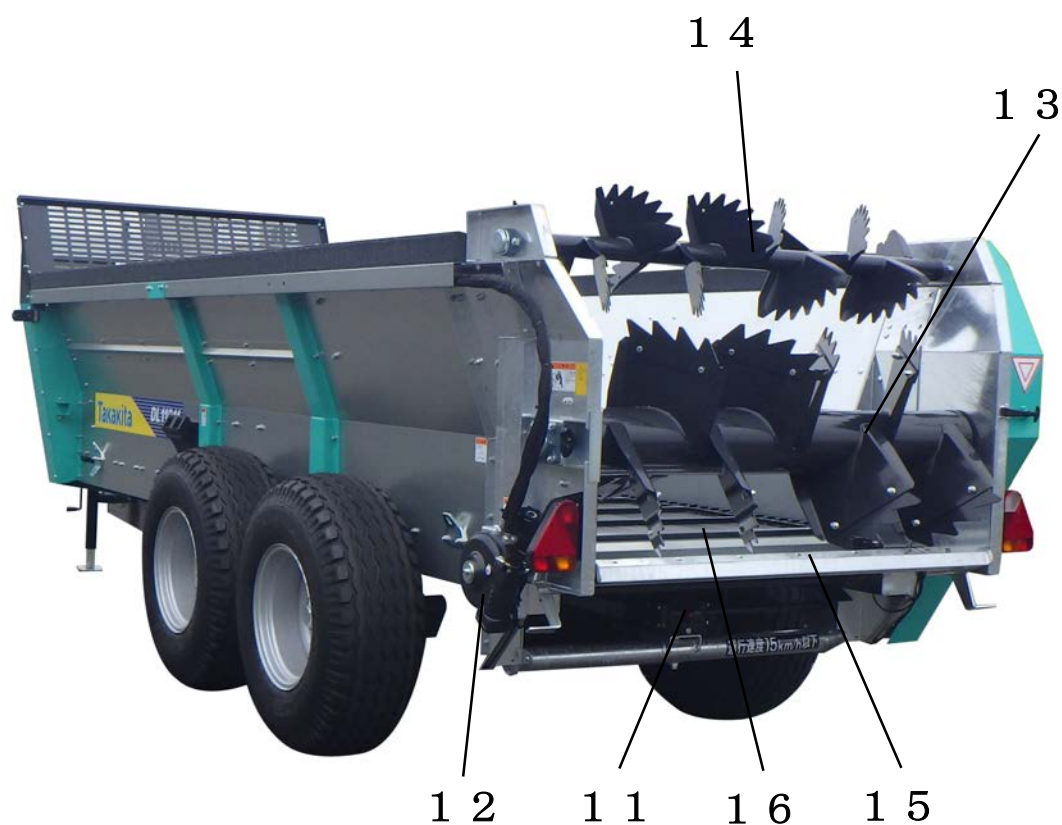


各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
1	けん引かん	トラクタと連結する
2	フレーム	全体の構造部を保持する強度部材
3	スタンド	トラクタの脱着時及び保管時に使用する
4	ストーンガード	トラクタへの石、堆肥の飛散を防止する
5	左右側板	堆肥を入れる荷箱の側板
6	タイヤ	けん引かんと共に荷重を支える
7	ジョイントカバー	入力軸の危険防止カバー
8	流量制御バルブ	床コンベアの送り速度を変える油圧流量制御バルブ
9	テンションボルト	コンベアチェンの張り調整を行う
10	車輪止め	駐車時のブレーキ

各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
1 1	ギヤボックス	トラクタの動力をビータへ伝達する
1 2	コンベア駆動ミッション	コンベアを駆動する
1 3	メインビータ	堆肥を散布する
1 4	補助ビータ	上層堆肥をならす
1 5	マニアパン	堆肥が下方へこぼれるのを防止する
1 6	コンベア	堆肥を移送する

トラクタへの装着



警告

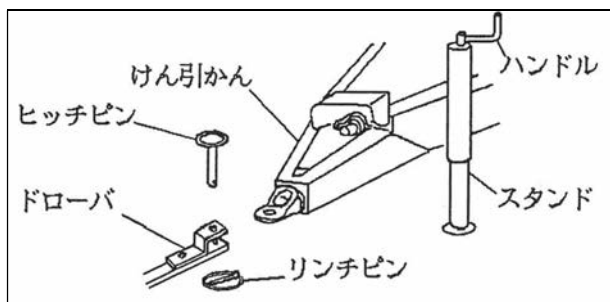
- トラクタへの本機装着は、平坦で安定した場所で行ってください。
- ドローバへの装着はトラクタの動きに十分注意し、2人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- ユニバーサルジョイントの接続は、必ずトラクタのエンジンを止め、P T Oクラッチを切ってから確実に取付けてください。

以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります。

1. 装着のしかた

◆ドローバへの装着

- ①トラクタのドローバを一番短い位置にしてください。
- ②本機、けん引かんの取付部を、スタンドのハンドルを操作してトラクタのドローバの高さに合わせ、トラクタを後進し、穴位置を合わせてヒッチピンで確実に装着してください。



注意

- ドローバを最短にして、本機を装着してください。
- ヒッチピン挿入後は必ずリンチピンを入れ、抜け止めしてください。
- ◆ スタンドを取外して格納してください。
スタンドを取外し、フレームに格納してください。(25ページ参照)



2. ユニバーサルジョイントの取付け

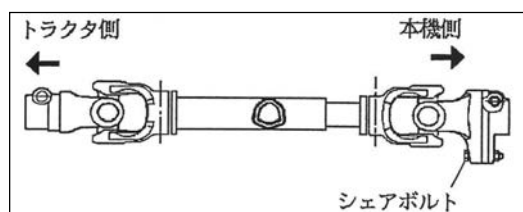
◆ユニバーサルジョイントの取付け順序

本機入力軸に取付けてから、トラクタ P T O 軸に確実に取付けてください。

注意

下図のように、シェアボルト付ヨークを本機側に取付けてください。

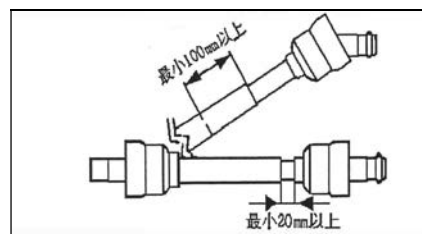
適正シェアボルト M8 X 50 (8 T) 1本



◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さは本機が旋回するときに変化します。

先に、ジョイントが長すぎないかを確認してください。長すぎるときは、下図の寸法が確保できるように切断してください。



注意

- 作業時のジョイント角度は最大30度を超えないように調整をしてください。
30度を超えるとジョイントの破損の原因となります。

トラクタへの装着

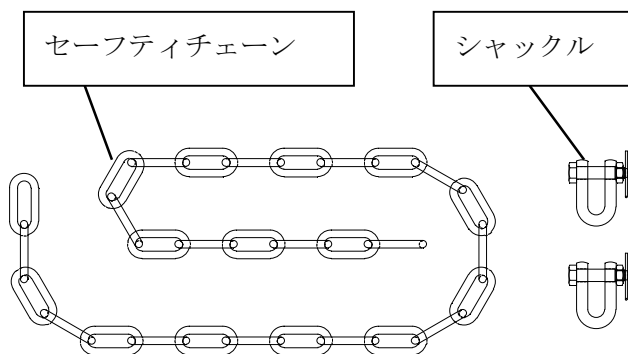
◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕を付けてしっかりと固定してください。

3. セーフティチェーンの接続

◆作業機を農耕トラクタでけん引して公道走行する際はセーフティチェーンでの連結が必要です。

セーフティチェーン1本とアールピン付きのシャックル2個を付属しています。本機をトラクタでけん引し公道走行する際は、必ずチェーンで作業機とトラクタを連結した状態で走行してください。



- ①セーフティチェーンの片端を本機牽引フレームへ回しかけてシャックルで固定します。



- ②セーフティチェーンをトラクタのドロワー部に回しかけ、トラクタから外れないようにします。



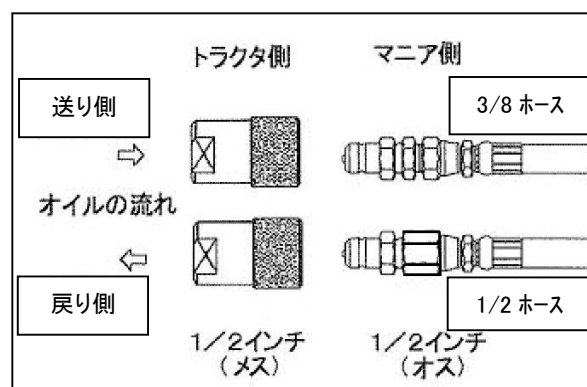
注意

- シャックル固定後は必ずアールピンを入れ、抜け止めしてください。
- 旋回時にセーフティチェーンがドロワー等に引っかからない事を確認して下さい。

4. 油圧ホースの接続

◆作業時の接続は残圧を抜いてから

- ①トラクタのエンジンを停止し、トラクタの油圧操作レバーを押し引きして残圧を抜いてください。
- ②油圧ホース先端についている油圧カップラオスを、下図のようにトラクタの油圧カップラに差し込んでください。



注意

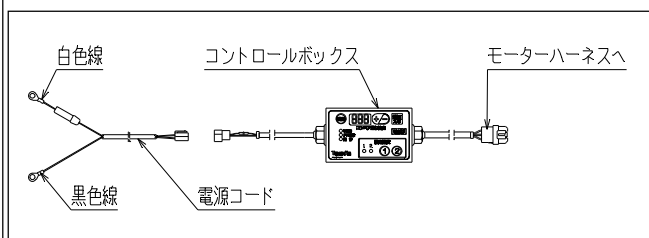
- 油圧ホースを取外す場合は、トラクタの油圧レバーを押し引きしてトラクタの残圧を確実に取り除き、必ず付属のダストキャップをカップラに差込み、傷をつけないようにしてください。
- 異なるメーカーのカプラを使用すると、油圧機器の作動不良を生じる場合がありますので同じメーカーのオスカプラとメスカプラで統一してください。
(トラクタ純正カプラの使用をお勧めします。)

トラクタへの装着

5. コントロールボックスの接続

- ①電源コードをトラクタのバッテリーと接続し、コントロールボックスとモーターハーネスを接続してください。

白色線はバッテリーの（+）極へ
黒色線はバッテリーの（-）極へ
それぞれ接続してください。



警告

接続の順序は（+）側から行ってください。
また、取り外すときは（-）側から行ってください。

逆にすると火花が飛び危険です。

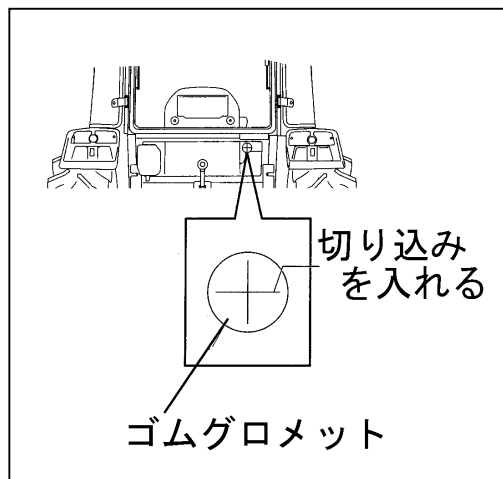
注意

接続できるバッテリーの電圧は、12Vです。24Vのバッテリーには接続しないでください。誤って接続すると、コントロールボックス及びモーターが破損します。

- ②コントロールボックスのハーネスを、トラクタの旋回時に対応できるよう十分に余裕をもたせ、回転部等に干渉しないよう、本機に取付けてください。

◆トラクタのハーネスの通しかたについて

キャビン付トラクタでハーネスをキャビン内に引き込む場合、キャビン後部にゴムグロメットがついている場合は、ゴムグロメットにカッターナイフで切り込みを入れ、ハーネスは必ずゴムグロメットを介して通してください。



警告

ゴムグロメットを外して通すと、電源コードに傷がつき、思わぬ事故をおこす恐れがあります。

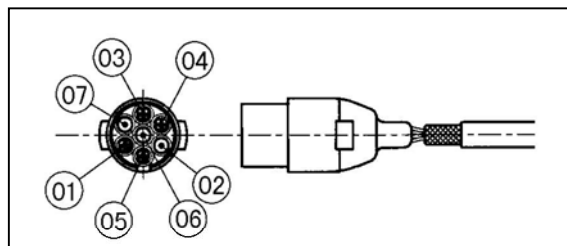
注意

コントロールボックスの、水濡れは故障の原因となります。屋内に保管してください。

トラクタへの装着

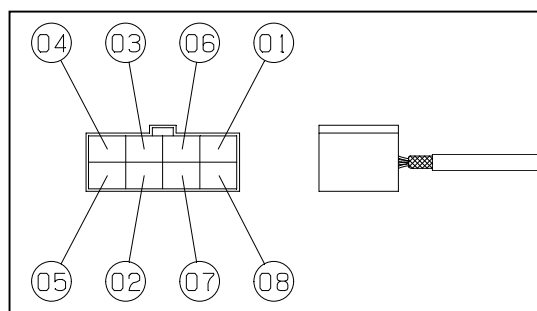
6. 灯火装置の接続

●D I N規格 7 Pコネクタ



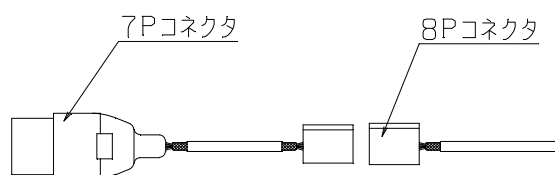
端子No.	配線色	接 続 機 器
①	白色線	アース
②	茶色線	尾灯・番号灯・車幅灯
③	黄色線	方向指示灯（左）
④	赤色線	制動灯
⑤	緑色線	方向指示灯（右）
⑥		（未使用）
⑦	青色線	後退灯

●日農工規格 8 Pコネクタ



端子No.	配線色	接 続 機 器
①	白色線	アース
②	茶色線	尾灯・番号灯・車幅灯
③	黄色線	方向指示灯（左）
④	赤色線	制動灯
⑤	緑色線	方向指示灯（右）
⑥		（未使用）
⑦	青色線	後退灯
⑧		（未使用）

8 Pコネクタでトラクタに接続する場合は、先端の7 Pコネクタを外して使用してください。

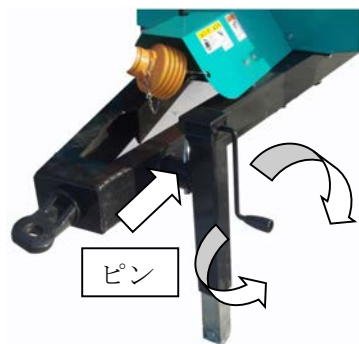


運転に必要な装置の取扱い

1. スタンドの取扱い

◆スタンドの操作のしかた

- ①スタンドはネジ式スタンドを使用しています。
- ②ハンドルを時計回りに回すと伸び、反時計回りに回すと縮みます。



- ③ピンを抜き差しし、フレームに収納してください。



⚠ 注意

スタンドは空車時しか使用できません。
堆肥積載時に使用するとスタンドが破損し
大変危険です。

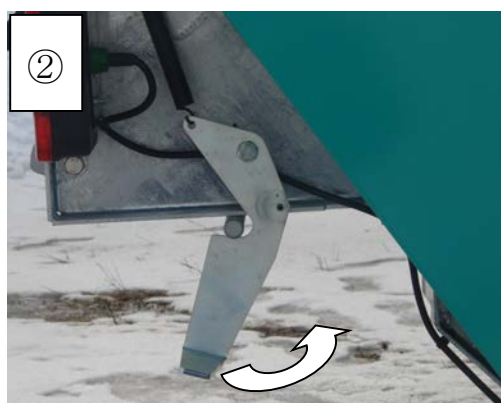
2. マニアパンの取扱い

◆マニアパンを開くときは

ビータに詰まった堆肥、異物などを取り除くときや、本機を清掃・洗浄するときに開いてください。

開く手順は

- ①本機左側のロックを外し
- ②本機右側のロックを外すとマニアパンが開きます。



⚠ 警告

異物等が挟まれていると、マニアパンが勢いよく開く場合があります。周囲に人がいないことや、開いたマニアパンに接触しない位置を確かめた上、マニアパンを開いてください。

マニアパンを閉じる時は左側のロックを外した状態でマニアパンを閉じた後、左側のロックを閉じてください。

運転に必要な装置の取扱い

3. 散布量（コンベア送り速度）の調整

◆散布量を調整するときは

散布量表（30ページ参照）を目安にコントロールボックスを操作して、希望する散布量の送り速度に設定してください。

①コントロールボックスの設定



電源〔入／切〕を押し、コンベア送り速度の「＋／－」のボタンを押すと、送り速度調整ができます。〔＋〕を押すと表示数値が増加して送り速度が速くなり、また〔－〕を押すと表示数値が減少して、送り速度が遅くなります。

注 意

送り速度は10段階ですが、本機の機構上、比例的には送り速度は上がりませんので、送り速度と散布量（トラクタ速度）の関係は30ページを参照してください。

注 意

全てのランプが点滅した場合は、コントローラとモータハーネスが正常に接続されていない場合があります。

全てのランプが点滅した場合は、販売店にご相談ください。

②作業の終了時には、電源〔入／切〕を押し、電源を切ってください。

注 意

作業終了後は必ずコントロールボックスの電源を切ってからトラクタのエンジンを停止してください。

上記手順を守らなかった場合、誤作動をおこすおそれがあります。

◆コンベア送り速度を記憶するときは

本機のコントロールボックスはコンベア送り速度を2通り、記憶する事が可能です。

①油圧は送らずに、電源〔入／切〕を押して電源を入れてください。

②「＋／－」のボタンを押して、任意の送り速度を表示させてください。

③設定速度①又は②ボタンを約3秒間押しつづけると、①又は②ランプが点滅し、記憶終了です。

●記憶した送り速度は電源を切っても残ります。

●送り速度は何度も上書き可能です。

④電源〔入〕状態で設定速度①又は②ボタンを押すと、保存した送り速度に変わります。

●①又は②ボタンを押した後も、送り速度の「＋／－」のボタンを押すと、送り速度を変える事ができます。

◆コンベアを早送りするときは

「早送り」ボタンを押している間は、コンベア送り速度が最速（送り10）でコンベアが送られます。

「早送り」ボタンを離すと、元の速度に戻ります。

注 意

「早送り」は堆肥移動等、ビータへの負荷が低い時に使用してください。

注 意

コントロールボックスの、水濡れは故障の原因となります。作業時は水に濡れない場所で使用し、作業後は屋内に保管してください。

運転に必要な装置の取扱い

4. P T O連動機能について

本機はP T O回転速度が 300min^{-1} (r p m) 以上でないと、コンベアが動かない機能 (P T O連動機能) を装備しています。

P T O連動機能により、シェアボルトが切断した時、トラクタP T O回転速度が低い時 (回転速度が 300min^{-1} 以下) は、コンベアが動きません。

通常、コントロールボックスの電源をONにした場合はP T O連動機能ON状態です。電源 [入/切] を短く押すとP T O連動機能のON/OFFを切り替えることができます。P T O連動機能がONの時はP T O連動ランプが点灯し、OFFの時は消灯します。

散布作業を行う時は必ずP T O連動機能ONの状態で行って下さい。

機体の掃除をする時や近接センサ破損時にP T O連動機能OFFを使用してください。



注意

P T O連動を使用するための近接センサ破損時はP T O連動機能OFFの状態で作業が可能ですが、シェアボルトが切れてもコンベアが自動停止せず、機械が破損する危険性があります。

P T O連動機能OFFの状態で作業している際にシェアボルトが切断した時はすみやかに油圧レバーを操作し、送りを止めてください。

その後、マニاپンを開け、荷箱内の異物を取り除いてから、作業を再開してください。(25ページ参照)

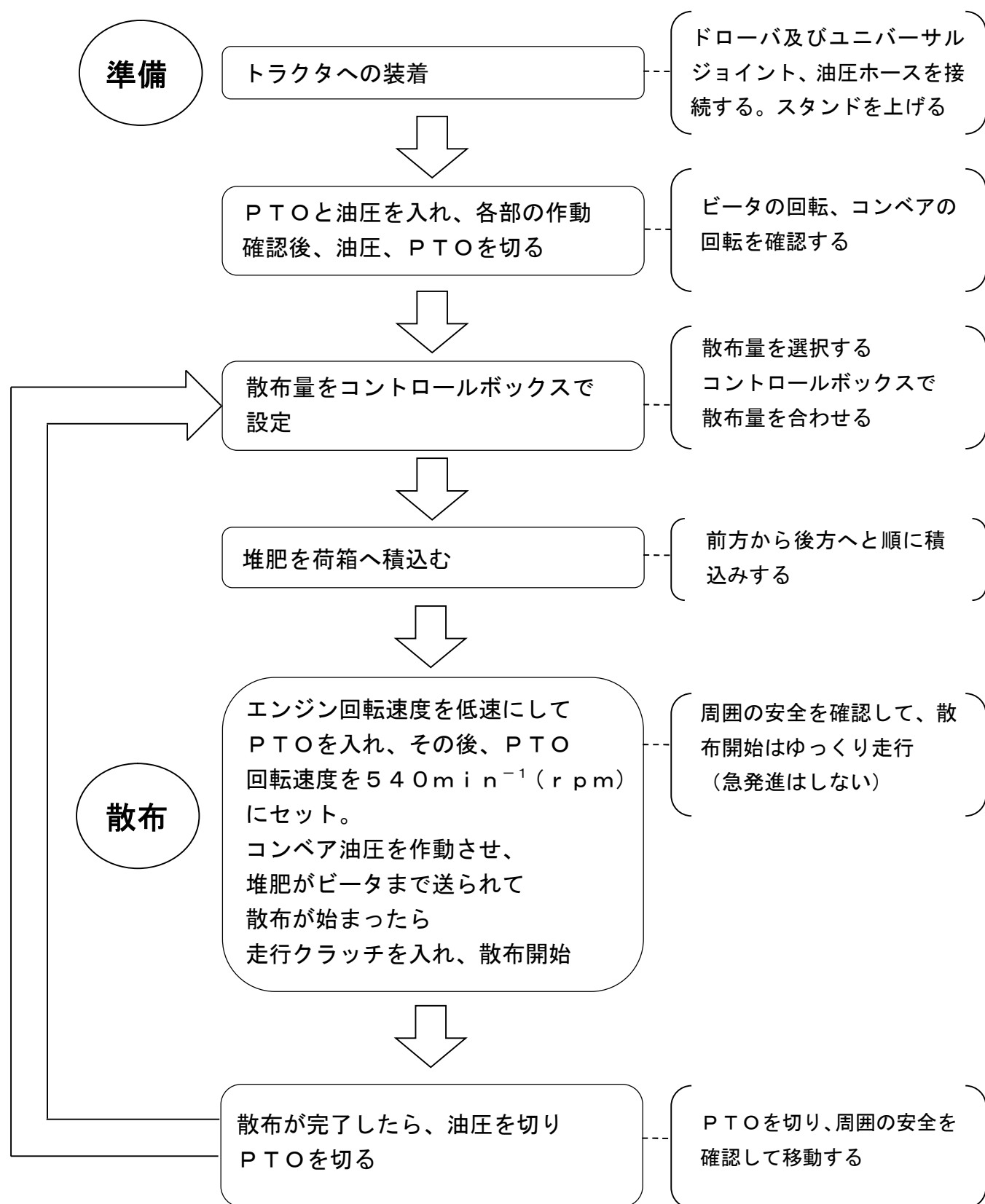


警告

異物を取り除く際は、トラクタのエンジンを切り、平坦な場所に停止させ
コントロールボックスの電源を切り
安全を確認の上、棒等を使用して異物を取り除いてください。

作業方法

1. 作業手順と要点



作業方法

2. 移動するときは

移動するとき、公道走行をする際は
15 km/h以下で走行してください。

注意

下り坂を走行する場合は、トラクタのエンジンブレーキを使用してゆっくり走行してください。

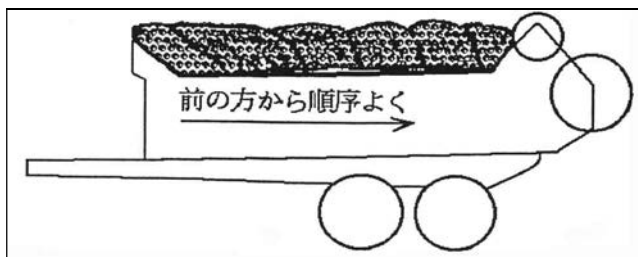
警告

- 絶対に急発進、急ブレーキ、急ハンドルは行わないでください。
- 旋回するときは、重心の変化や機械の長さ、幅に十分注意してください。

3. 堆肥の積み込み方法

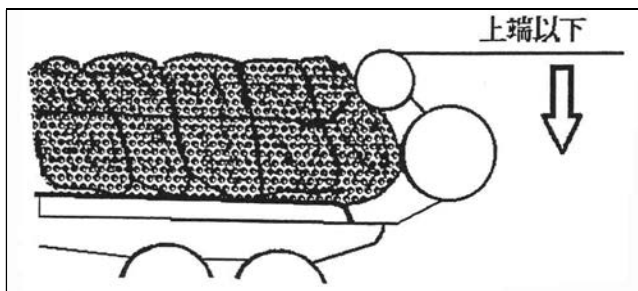
◆前の方から順序よく積み込みしてください。

堆肥を積み込むときは、前方から後方へと順序よく積み込むと、散布時に堆肥がほぐれやすくなります。



◆堆肥積み込み高さはビータの上端以下まで。

堆肥の積み込み高さは、ビータの上端以下とし、上面全体を平らにならしてください。



注意

堆肥を平らにならすとき、堆肥を押さえすぎると、本機破損の原因となります。注意して積み込みしてください。

注意

堆肥を積み過ぎると、本機を破損するおそれがあります。

警告

堆肥を積み込むときは、PTOを切ってエンジンを停止させてから平坦な場所で積み込み作業をしてください。

◆石などは、取り除いてください。

堆肥に石や木片などの異物が混入していると、本機損傷の原因となります。積み込み作業中に発見したら、必ず取り除いてください。

4. 散布できない物は

◆土、砂などは散布できません。

下記の物は散布できません。

土、砂、石、砂利、ブロック類
汚泥、木材類、氷、牧草ロール
鉄屑、スラリ・ヘドロ状堆肥
粒状肥料

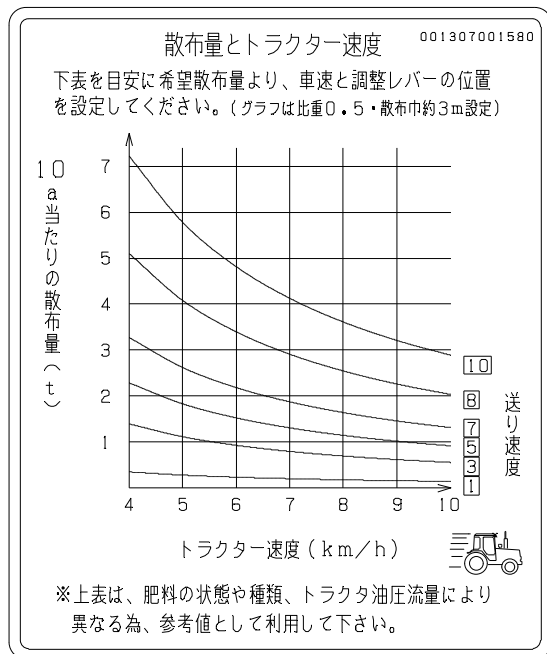
長わら・牧草は、完全に完熟するか
10 cm以下に細断して下さい。

作業方法

5. 散布量とトラクタ速度について

◆散布量設定のしかた

下表を目安に、希望する散布量を、トラクタの車速とコントロールボックスで設定してください。



- 散布量目安表「散布量とトラクタ速度」は本機前方の左側（後方視）に貼り付けてあります。
散布量は堆肥の種類によって異なりますので、参考値としてお考えください。

《例》10aあたり4トン散布したい場合は、送り速度8でトラクタ車速5km/hとなります。

6. 散布方法について

◆作業手順

- ①エンジン回転速度を低速にして、PTOを入れます。
- ②PTO回転速度を540min⁻¹(rpm)にします。
- ③コンベアを作動させます。
- ④堆肥がビータまで送られ、飛散したら走行クラッチを入れ、設定速度で走行してください。

注意

- ・エンジンを高速回転させ、PTOクラッチ入れるとシェアボルトがせん断します。
- ・必ずエンジン回転速度を低速にしてからPTOクラッチを入れてください。
- ・頻繁にシェアボルトが切れる場合はコンベアの送り速度を遅くしてください。

! 注意

- PTOとコンベア送りの油圧を入れるときは、必ず次の順序で入れてください。
 - ①PTOを入れる。
 - ②コンベア送りの油圧を入れる。
- 逆に入れると、ユニバーサルジョイントのシェアボルトがせん断します。
- 止めるときは上記順序の逆にし
トラクタの油圧を切ってからPTOを切ってください。
- 散布作業を始めるときは、後方に人や動物のいないことを確認してください。

◆PTO回転速度

散布作業を行うときは、PTOの回転速度は500～540min⁻¹(rpm)で行ってください。

◆ゲート（オプション）装着機械を使用する場合は

注意

通常の堆肥散布を行うときは、ゲートを最大まで上げて使用してください。
ゲートを使用して堆肥を平らにならすことは絶対しないでください。
ゲートが破損します。

作業方法

注意

作業後、緩衝材、ゲートおよびシリンダ等に堆肥が堆積している場合は取除いてください。

そのままにしておくと、堆肥が固まりゲートが正常に作動しなくなる恐れがあります。

◆石・異物が入った堆肥の散布（禁止）

石・異物は、ビータとハネ破損等の原因となるため、散布は不可能です。

散布中カンカンという異音が出たら散布をやめ、ビータ前面の石・異物を除去してください。

7. 傾斜地での作業

◆必ず直角走行、急ハンドル禁止

等高線に対して直角走行し、旋回は速度を落とし、急ハンドルは切らないでください。



警告

斜面の等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

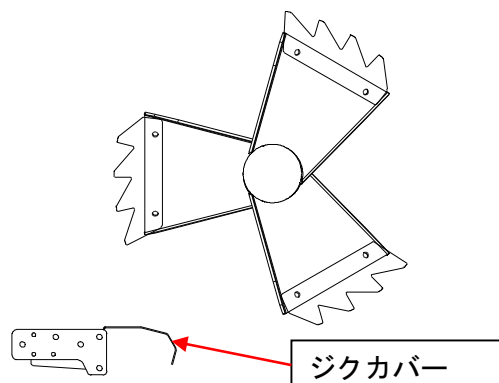
8. 逆転操作

トラクタの油圧を操作する事によりコンベアを逆転送りする事が可能です。逆転送りは異物の除去等に使用できます。

注意

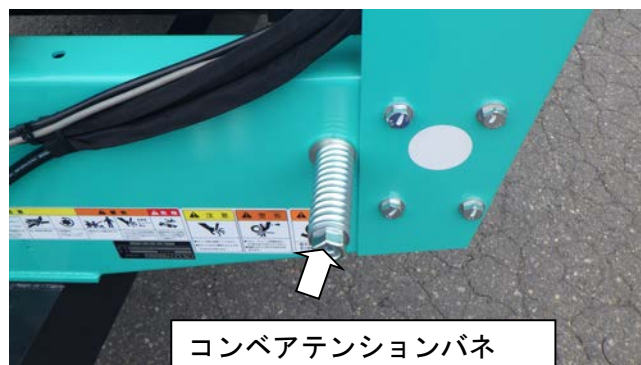
ジクカバー周辺に石等の異物がある状態で逆転送りを行なうと、異物がジクカバーやコンベアと干渉し、機械が破損する恐れがあります。

ジクカバー周辺の異物を取り除いてから逆転送りを行なってください。



注意

逆転送りを行う際はコンベアテンションバネの長さが105mmになるまで張ってください。機械が破損するおそれがあります。



注意

逆転送りはコントロールボックスの電源に関係なく、トラクタ油圧操作のみで可能です。

コンベア逆転送りは次の手順で行なってください。

- ①エンジン回転をアイドリングまで下げる。
- ②PTOを切る。
- ③トラクタ油圧レバーを通常作業時と逆方向に操作してください。
コンベアが逆転します。

注意

荷箱内の堆肥の量によっては、逆転送りを行うと、堆肥に押され、本機前側が破損する場合があります。

逆転送りの使用は最小限に抑えてください。

作業方法

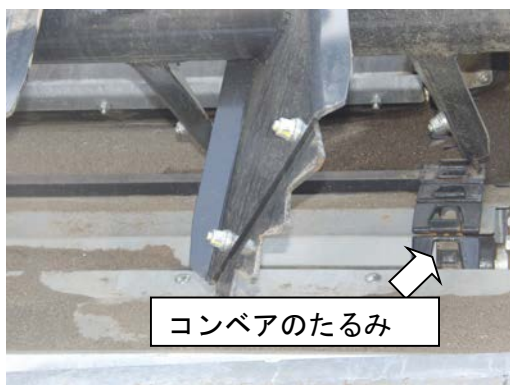


警告

異物を取り除く際は、トラクタのエンジンを完全に停止させ、コントロールボックスの電源を切り、安全を確認の上、棒等を使用して異物を取り除いてください。

注意

コンベア逆転送りした後、再度コンベアを正転送りする場合は、コントロールボックスの送り速度を3以下にセットし、コンベアのたるみが取れてから通常散布作業を行なってください。



作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前の点検は、欠かさず行ってください。



- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたり危険です。
- 点検整備をするときは油圧を切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。

点検一覽表

No.	項目	内容	参照ページ	チェック
1	コンベアチェンの張り調整	たわみ量 5 0 mm	34	
2	ビータ駆動チェンの張り調整	たわみ量 1 0 ～ 1 5 mm (メインビータ) 1 5 ～ 2 5 mm (サブビータ)	34	
3	ビータのヒモなどの巻き付き	ヒモ、草巻き付きを除去	—	
4	ビータハネの摩耗	交換する	35	
5	ビータハネ取付けのゆるみ	増締めをする	35	
6	ギヤボックスオイルの給油	ギヤオイル # 9 0 補充 (0 . 6 リットル)	40	
7	コンベア駆動ミッション	ボンノック A X オイル # 4 6 0 (1 . 4 リットル)	—	
8	予備シェアボルト	不足の時は補充	35	
9	タイヤ空気圧	不足の時は空気補充	36	
1 0	タイヤハブナットのゆるみ	増締めをする	35	
1 1	その他各部注油、グリス	各部への給油参照	37～39	

以上について、異常が認められない場合は、PTO回転速度 $500 \sim 540 \text{ min}^{-1}$ (rpm) まで徐々に上げ、1～2分間ならし運転を行ってから作業を始めてください。

[illegible]

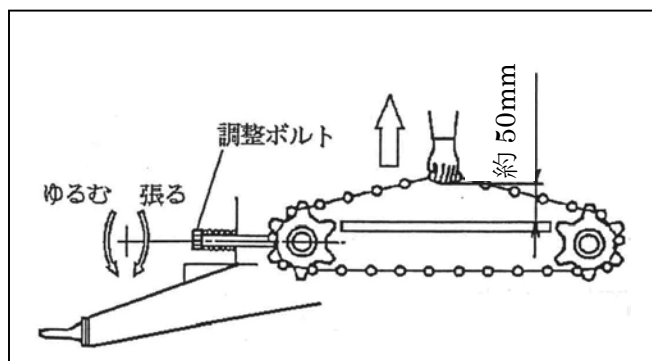
簡単な手入れと処置

1. コンベアチェーンの張り調整

◆調整のしかた

コンベアチェーンが伸びた時は、次の要領で調整してください。

- ①下図に示す張り調整ボルトを右に回し、左右均一に張ってください。
- ②コンベアバーの中央部を手で持ち上げて、床面との距離を約50mmになるよう調整してください。



注意

コンベアチェーンは必ず左右均一の張り調整をしてください。

2. 各駆動チェーンの張り調整

注意

チェーンは特に初期伸びをします。初めての使用から10時間後は下記に従って、張り調整を行ってください。

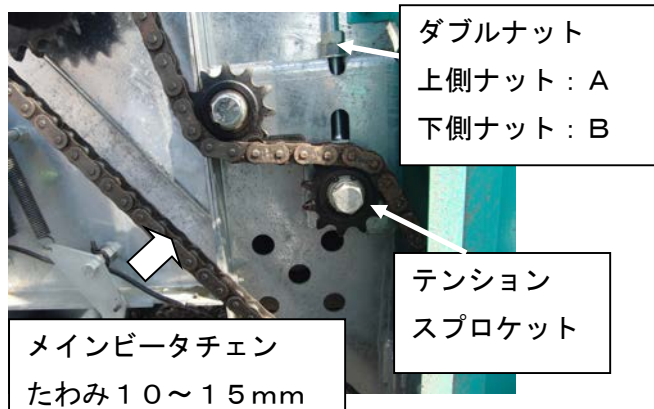
警告

- ①チェーンの張り調整や、各部の調整をするときは、PTOを切り、エンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。
- ②取外したカバー類は、必ず取付けてください。

◆メインビータチェーンの調整

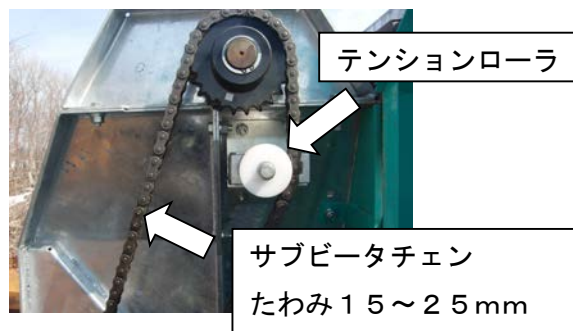
- ①テンションスプロケットを固定しているボルトをガタのない程度に少し緩める。

- ②ダブルナットのナットA（上側）を少し緩め、ナットB（下側）を締めてチェーンのたわみ量を10～15mmに調整する。
- ③テンションスプロケットの固定ボルトを締めてダブルナットをナットB（下側）を押さえながらナットA（上側）を締めて固定する。



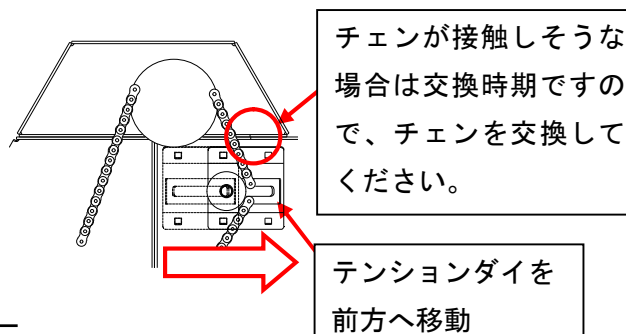
◆サブビータチェーンの調整

- ①テンションローラを締め付けているボルトを少し緩める。
- ②テンションローラを押し込み、チェーンのたわみ量を15～25mmに調整する。



注意

テンションを張り切れない場合はテンションダイの位置を前方へ移動しテンションを張ってください。



簡単な手入れと処置

3. シェアボルトの交換

シェアボルトはユニバーサルジョイントのヨーク部1ヶ所に組入れしております。過負荷がかかったとき、ボルトがせん断され、ビータの回転が停止します。

◆シェアボルトのサイズ

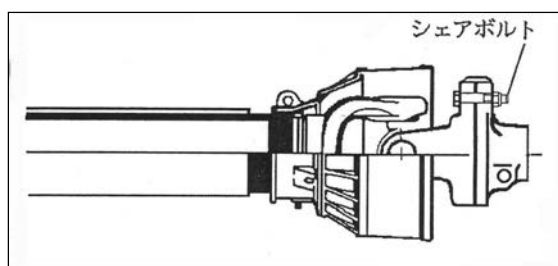
M8×50（8T）半ネジ 1本

注意

シェアボルトは上記指定のボルト以外は絶対に使用しないでください。

◆ボルトがせん断したら交換してください。

せん断したボルトを除去し、ボルト穴を合わせてからシェアボルトを入れ、ナイロンナットで締め付けてください。



注意

再始動するときは、ビータの異物などを取り除いてから行ってください。

4. 洗浄について

◆本機を洗浄するときは

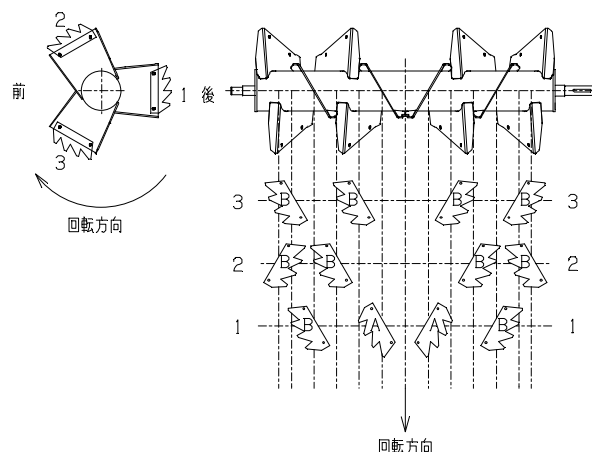
P T Oを切り、エンジンを停止させて、回転部が確実に停止してから洗浄してください。

⚠危険

点検や清掃、洗浄を行うときは、必ずP T Oを切り、エンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。これを怠ると重大な傷害事故につながるおそれがあります。

5. ビータ羽根の交換と配列

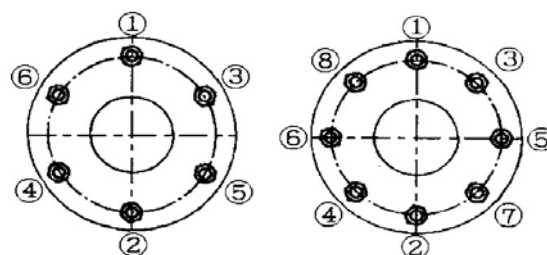
- ビータの羽根を交換する場合は、下図のとおりに組付けしてください。
- 本機の振動を防止するため、1枚でも羽根がない状態では散布しないでください。振動が多い場合、本機損傷の原因となります。
- 羽根が摩耗した場合は、バランス保持のため全数を一度に交換してください。トサカ型羽根の枚数は合計12枚です。



6. タイヤハブナットの増し締め

ホイールを止めているハブナットは凹凸の多いほ場では初期段階にゆるむ場合があります。

定期的に点検し、ゆるんでいる場合は下図の順序で増し締めしてください。



DL9011

DL11011

◆本機に装着しているハブナットの締め付トルク

DL9010	ハブナットサイズ M18×P1.5
	締め付トルク 360～430N・m
DL11010	ハブナットサイズ M16×P1.5
	締め付トルク 235～284N・m

簡単な手入れと処置

7. タイヤの点検、修理

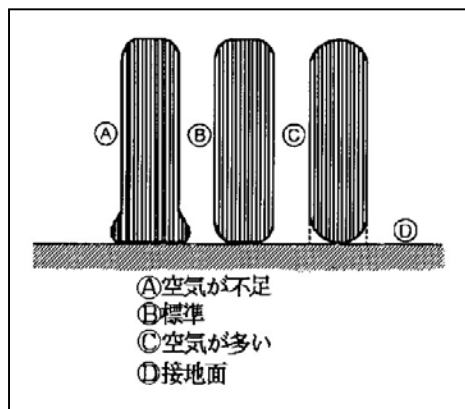
- ◆作業前にはタイヤ空気圧を確認してください。



警告

- タイヤ空気圧は取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは、タイヤ破損の恐れがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破損の恐れがあります。
- タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは、十分な整備設備をもち特別教育を受けた人がいるタイヤショップなどの専門店で依頼してください。

外観からタイヤ空気圧を判断する目安は次のとおりです。

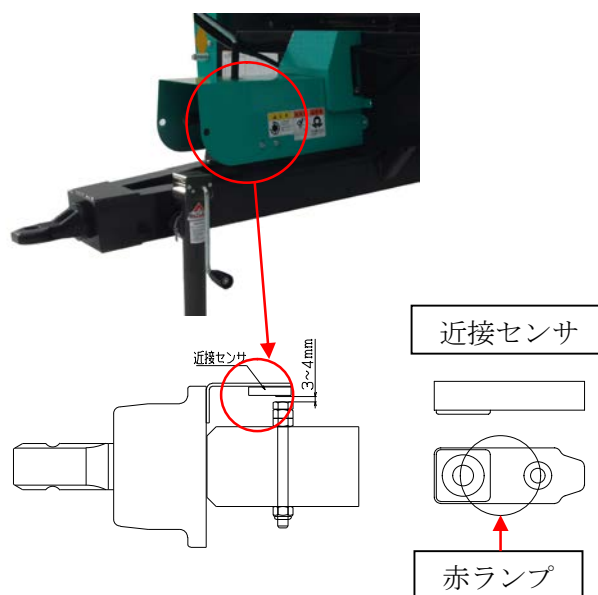


- ◆本機に装着しているタイヤのサイズと規定空気圧

DL9010	タイヤサイズ 14 L-16.1 10PR(チューブ入り) 空気圧 250kPa (2.5kg/cm ²)
DL11010	タイヤサイズ 16.0/70-20 12PR (チューブ入り) 空気圧 240kPa (2.4kg/cm ²)

8. P T O回転速度検出センサについて

- ①本機にはP T O回転速度検出用の近接センサが取り付けられています。近接センサとボルト頭とのスキマが3～4mmになるようにボルトの距離を調整してください。
- ②コントロールボックスの電源がONの状態では近接センサをボルト頭に近づけて、近接センサの赤ランプが点灯することを確認してください。



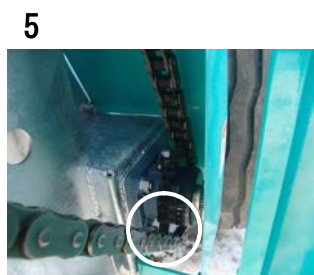
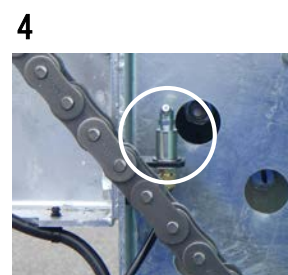
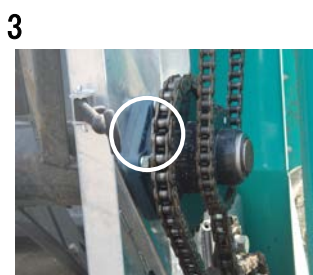
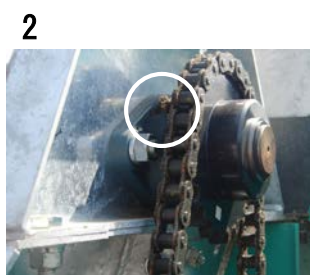
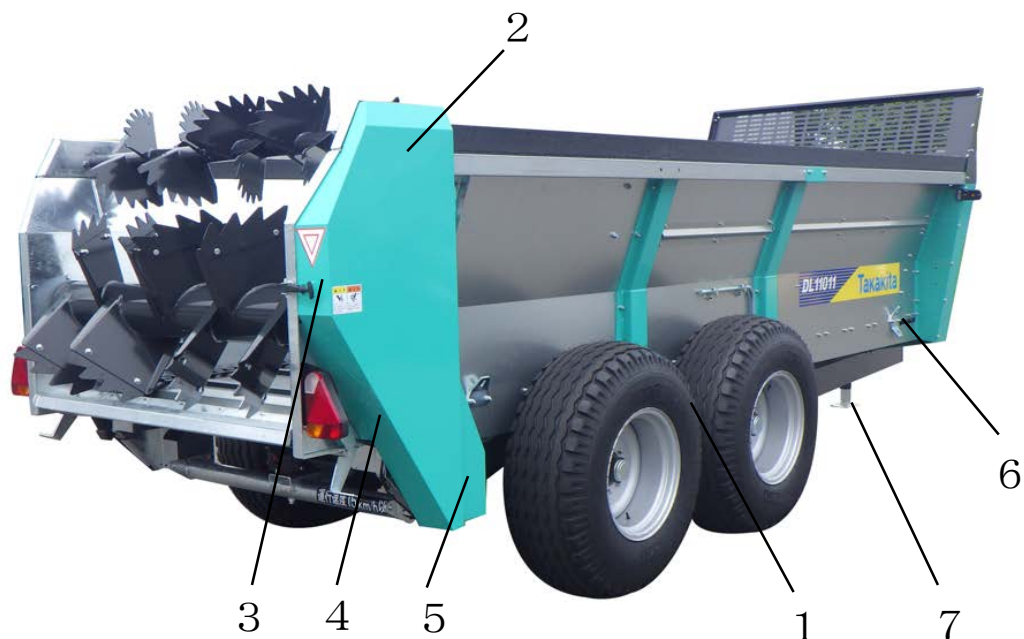
警告

近接センサを調整する際は、トラクタのエンジンを完全に停止させ、安全を確認の上、調整を行ってください。

簡単な手入れと処置

9. 各部の注油・グリスアップ

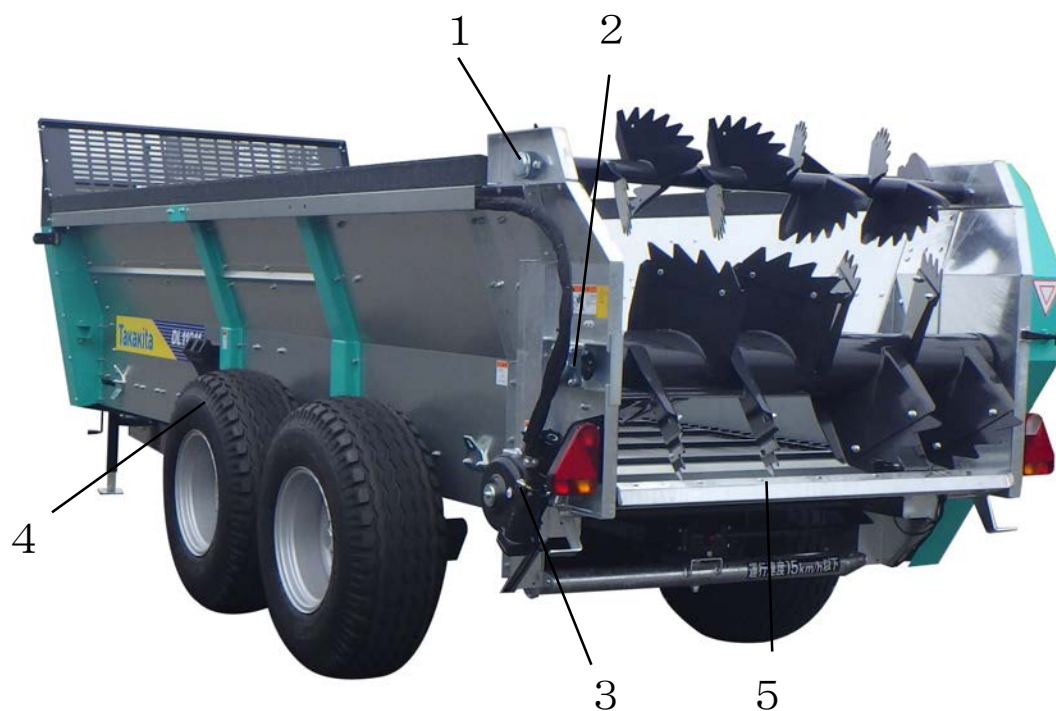
図表に従って各部にグリスアップを行ってください。



図番	場 所	グリスアップ 時間	備 考
1	タンデムピン（タイヤとタイヤの間）	5 0 H	左右 2 箇所
2	補助ビータ右軸受	5 0 H	
3	メインビータ右軸受	5 0 H	
4	コンベア駆動軸右軸受	5 0 H	
5	ビータ駆動シャフトの右軸受	5 0 H	
6	床コンベア前スプロケット	5 0 H	左右 2 箇所
7	ジャッキスタンド	5 0 H	

簡単な手入れと処置

図表に従って各部にグリスアップを行ってください。



1



2



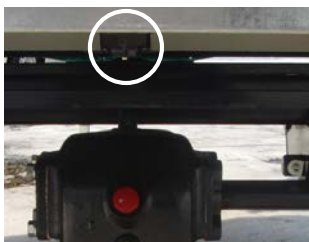
3



4



5



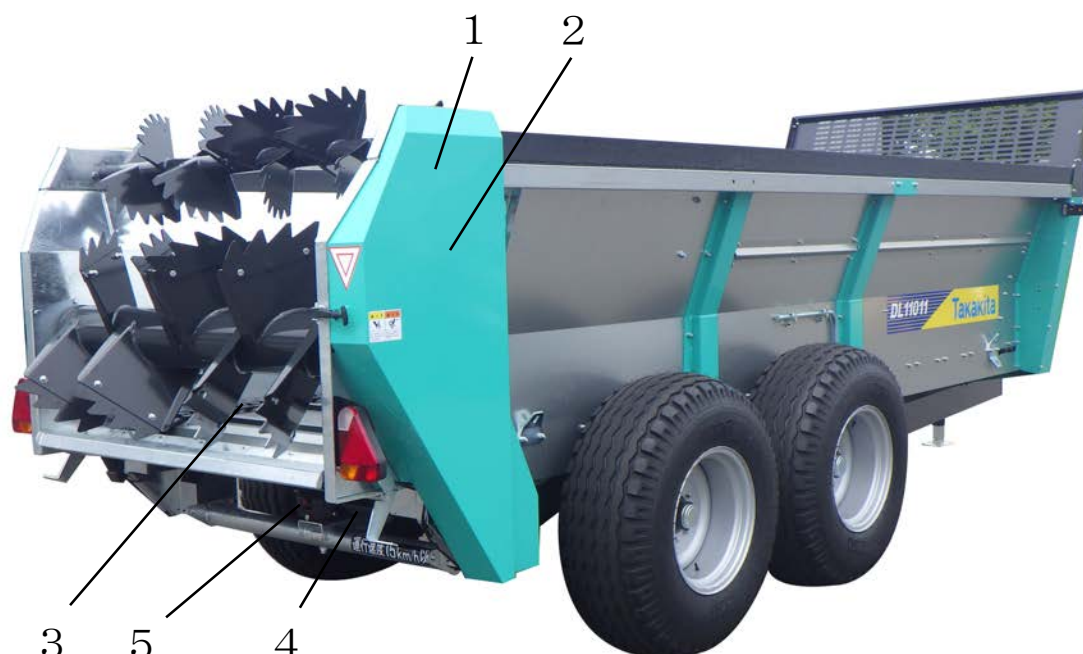
6



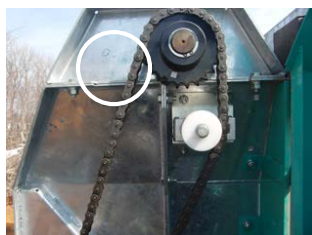
図番	場 所	グリスアップ 時間	備 考
1	補助ビータ左軸受	5 0 H	
2	メインビータ左軸受	5 0 H	
3	コンベア駆動軸左軸受	5 0 H	
4	コンベア駆動シャフトの中間軸受	5 0 H	2箇所
5	センターメタル部	5 0 H	
6	ユニバーサルジョイント部 (ヨーク、シアー部)	5 0 H	

簡単な手入れと処置

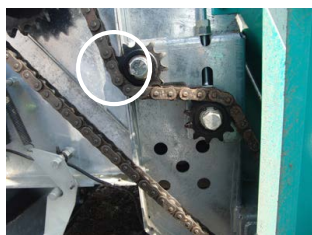
図表に従って各部に注油を行ってください。



1



2



3



4



5



図番	場所	注油 時間	備考
1	補助ビータ駆動チェーン	20H	
2	メインビータ駆動チェーン	20H	
3	コンベアチェーン	20H	長期格納時：廃油
4	コンベア駆動シャフトのチェーン	20H	
5	ギヤボックス	シーズン毎	

簡単な手入れと処置

10. ギヤボックスオイル交換

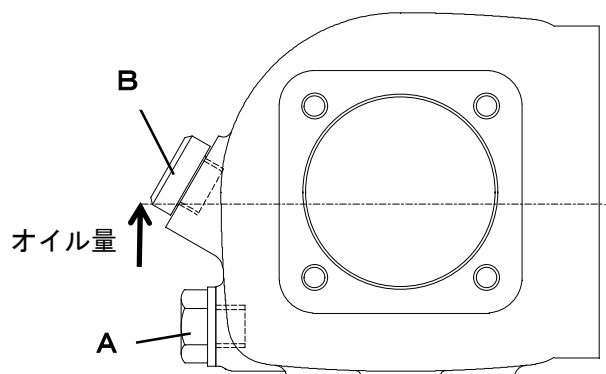
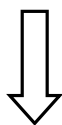
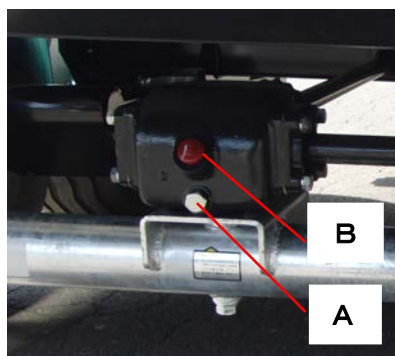
シーズンごとに全量を交換してください。

ギヤオイル	容量 (ℓ)
#90	0.6

以下の手順に従ってオイル交換を行ってください。

①Aのドレンプラグを外し、使用済みオイルを出す。オイル出し切った後、新しいシールテープを巻いたドレンプラグを取付けてください。

②Bのオイルキャップを外し、穴からオイルが出るまで新しいオイルを入れ、オイルキャップを取り付けてください。



11. 長期格納時の手入れ

- 水洗いして付着した堆肥や泥などを落とし、回転部に巻き付いたヒモや草などを取り除いてください。
- 乾燥後は、回転部、摺動部やチェーン類には十分注油し、さびないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、塗料を塗ってさびないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいるときは締めてください。
- 格納するときは、雨やほこりのかからない屋内の平坦な場所で保管してください。

簡単な手入れと処置

12. コントロールボックス（電気系統）が故障した場合の処置

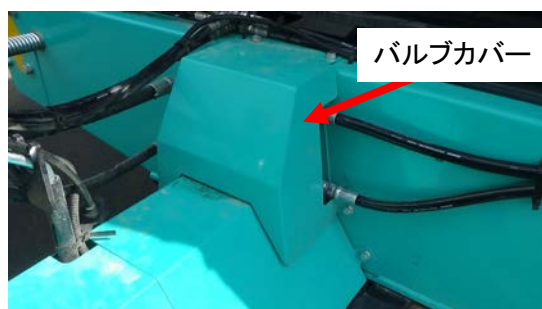
コントロールボックスやモータ（電気系統）が故障した場合、下記の処置を行う事で、作業が可能になります。



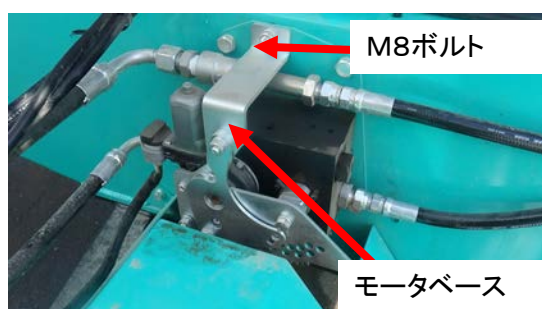
警告

下記処置を行う時は、PTOを切り、エンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。

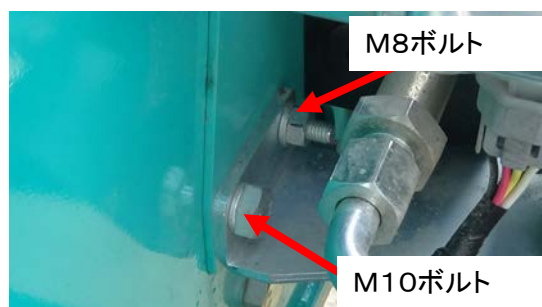
- ①バルブカバーを外してください。
(M8 ボルト 4 本)



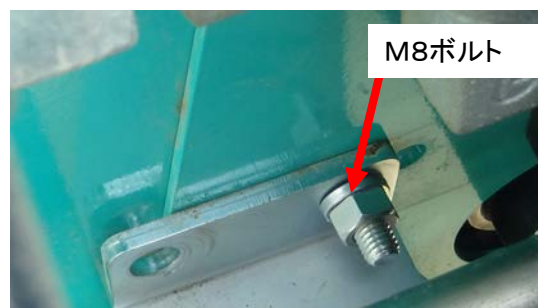
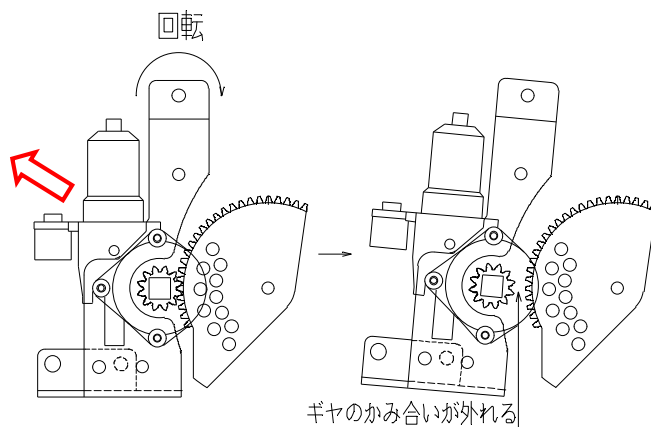
- ②モータベース上部のM8 ボルト 1 本を緩めてください。



- ③下部左側のM8 ボルト 1 本と M10 ボルト 1 本を外してください。

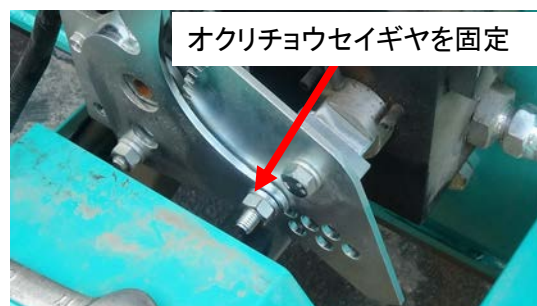
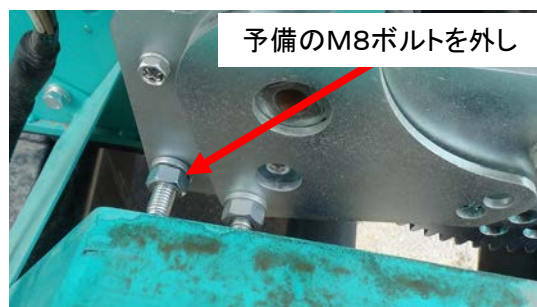


- ④モータベースを時計回りに若干回し、③で外したM8 ボルト 1 本で固定してください。
(モータのギヤのかみ合いを外します。)



- ⑤②で緩めたM8 ボルトを固定してください。

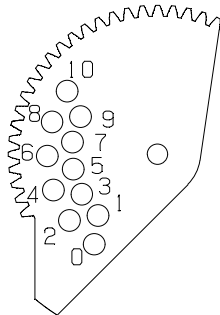
- ⑥モータベースに組付されている予備の M8 ボルトを 1 本外し、オクリチョウセイギヤを任意の位置で固定してください。



簡単な手入れと処置

オクリチョウセイギヤの穴位置とコンベア送り速度の関係は下記です。

(コントロールボックスの送り速度とは若干、差異が生じる場合があります。)



注意

コントロールボックスに関係なく、トラクタの油圧操作のみでコンベアが送られます。

シェアボルトが切れた時等、P T O連動機能による機械の保護機能（コンベア送り停止機能）は動作しませんので、注意してご使用ください。

不調診断

不調内容	診 断	処 置	参照ページ
コンベアが動かない	● P T O連動機能が働いている ● 荷箱内に異物がある ● コンベアがゆるんでいる ● コンベアチェン、バーの切損 ● 油圧ホースの接続が悪い ● トラクタの油圧オイル不足で所定の圧力が出ていない	● P T O回転数を $300 \text{ min}^{-1} (\text{rpm})$ 以上に上げる ● 混入した異物を除去する ● コンベアの張り調整をする ● チェン、バーを交換する ● 油圧カプラを確実に接続する ● 油圧オイルを補充する	27 25 34 22
ビータが回転しない	● ジョイントのシェアボルトが切断した	● シェアボルトを交換する (M8×50 8T半ネジ) ● 混入した異物を除去する	35 25
送りが遅い	● トラクタのオイル不足 ● 油圧カプラが合っていない。	● トラクタのオイル補充 ● トラクタに合った、トラクタ純正品油圧カプラを使用する。	22
散布状態が悪い (バラつく)	● ビータのハネが摩耗している ● 異物が混入している	● 新品と交換する ● 異物を除去する	35 25
振動が多い	● ビータのバランスが悪くなっている	● 欠損している羽根を修理、又は補充する ● 羽根を全数交換する	35 35

付表

1. 主要緒元

品 名		マニアスプレッタ	
型 式		DL9011	DL11011
装着方法		ドローバけん引式	
駆動方法		PTO駆動（回転速度500～540min ⁻¹ （rpm））	
適用トラクタ		44.1～81 kW （60～110 PS）	58.8～99.3 kW （80～135 PS）
機 体 寸 法	全 長	6,500mm	7,460mm
	全 幅	2,280mm	2,390mm
	全 高	2,350mm	2,420mm
質 量		2,370kg	2,660kg
散布幅		3.0m	
堆肥送り機構		0～10段	
コンペアチェン・配列		2列	
車輪配列		1軸4輪（タンデム式）	
タイヤサイズ		14L-16.1-10PR （チューブ入）	16.0/70-20 12PR （チューブ入）
最大積載量		7,200kg	8,800kg
作業速度		4～10 km/h	
作業能率		14～17 分/10a	
ボ ッ ク ス 寸 法	全 長	4,240mm	5,190mm
	全 幅（最小）	1,390mm	
	全 高	1,030mm	
	JIS荷箱容量	9.0 m ³	11.0 m ³

※この主要緒元は、改良のため予告なく変更することがあります。

2. 主な消耗部品

品 名	部品コード	備 考
ハネA	11717-2271-002	
シェアボルト	01158-0080-50A	M8×50 8.8T（半ねじ）（10本セット）

3. 給油

給油箇所	使用オイル	給油量
センターミッション	ギヤオイル #90	0.6リットル
コンペア駆動ミッション	ボンノックAXオイル #460	1.4リットル